

ふじみの



No.55

東京農大畜友会



畜友会の皆さんへ

畜産学科長・畜友会会長 桑山岳人



2018年4月東京農業大学農学部は改組し、2021年度までは、旧学科と新学科の学生が共存します。

東京農業大学農学部畜産学科は、その前身の専門部畜産科として1947年に千葉県茂原市にて誕生し、東京都世田谷区を経て、現在の厚木キャンパスは3つ目のキャンパスという事になります。畜産学科としては、昨年度最後の畜産学科の新生を迎え、その学生の卒業をもって長い歴史に幕を閉じる事となりますが、これまで受け継がれて来た畜産学科および畜友会の精神は、今後も農学部の中でしっかり受け継がれて行くものと思います。今年度の体育祭では、畜産学科統一本部（畜産学科の2、3、4年生）と動物科学科1年生との合同チームで準優勝という成績をあげました。私達はこれからも畜産学科の一員であった事、畜友会の一員であった事をしっかりと胸に刻み、これからは東京農業大学農学部の行く末をしっかりと見守って行きましょう。

*『ぶじみの』は大学HP (<http://www.nodai.ac.jp/zoo/original/chikyukai.html>)
からもPDF版を配信しています。

平成三十一年三月吉日

平成三十一年三月吉日

※「ふじみの畜産」は、毎月15日発行の月刊誌です。発行部数は、毎月1,000部です。発行先は、東京農業大学畜産学部畜産学系、〒162-8601 東京都目黒区文京2-1-1 畜産学系 畜産学系長 水澤 洗 大 宛に送ります。

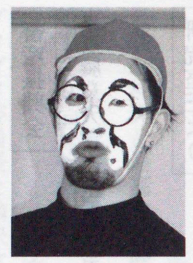
「ふじみの畜産」は、畜産学系長の水澤洗大先生が主宰する月刊誌です。発行部数は、毎月1,000部です。発行先は、東京農業大学畜産学部畜産学系、〒162-8601 東京都目黒区文京2-1-1 畜産学系 畜産学系長 水澤 洗 大 宛に送ります。



畜産学系長 水澤 洗 大

ふじみの発刊にあたり

畜友会委員長 水澤 洗 大



花々の蕾もようやくほころび始め、うたたねの心地よさを感じる今日この頃、今年も「ふじみの」第五十五号を発刊することとなりました。本誌には畜産学科・動物科学科の先生方からの寄稿や昨年度の事業報告を記載しています。

昨年より、畜産学科の名称変更があり動物科学科としてスタートを切りました。新しい厚木キャンパスが始まった中で夢への実現に向けて勇往邁進している学生の希望に満ち溢れた体験記が記載されています。

是時、隅々までご覧頂けたら幸いです。

目次

ふじみの

ふじみの畜産部誌(送別)

ふじみの

目次

畜友会の皆さんへ 畜産学科長・畜友会会長 桑山 岳人 1

ふじみの発刊にあたり 畜友会委員長 水澤 洸大 3

同窓会だより 畜産学科同窓会会長 栗原 良雄 6

「ふじみの」第五十五号発行によせて 畜産学科同窓会会長 栗原 良雄 6

畜産振興会 東京農業大学畜産振興会 便り 畜産振興会会長 半澤 惠 7

研究室だより 家畜繁殖学研究室 家畜育種学研究室 家畜生理学研究室 家畜飼養学研究室 畜産物利用学研究室 家畜衛生学研究室 20 18 16 14 12 9

第十九回厚木キャンパス収穫祭・第一二七回体育祭各部門委員長より チカラ 統一本部委員長 3年 水澤 洸大 50
みんなのおかげで。 特別企画委員長 3年 谷 洋介 51
宣伝隊を終えて 宣伝隊隊長 3年 松井 優美 52
最強の神輿と最高の仲間達 神輿隊長 3年 横田 千里 53
第129回体育祭 体育祭委員長 3年 比嘉 楓 54
ダメダメ委員長と愉快な仲間たち 樽装飾委員長 3年 竹澤 瑠璃 55
おーすごつちゃんです！ 装飾委員長 3年 石堂 董 56
十時なのに十五時 家畜苑苑長 3年 竹内 豊 57
編集委員長 3年 池内 美里 58

編集後記

ふじみの寄稿原稿(教員)

二度目の新人 加田日出美 22

経験、人、タイミンゲ 庫本 高志 23

多くの出会いと寄り道の末に 林田 まき 24

東京農業大学農学部動物科学科に着任して 米澤 隆弘 26

集う学友

厚木で出会った感謝 4年 酒見 樹 27

一生の仲間に出会えた 3年 小室日向子 28

人生夢と目標を忘れるな。 2年 井 郷一朗 29

畜友会だより

平成三十年度畜友会活動報告 30

平成二十九年畜友会決算報告 31

平成二十九年畜友会特別会計収支決算報告 32

平成三十年畜友会予算 33

平成三十年収穫祭特別会計予算 34

平成三十年度畜友会役員 35

第十九回厚木キャンパス収穫祭 36

第一二七回体育祭事業報告及び結果報告 36

東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則 44

同窓会だより



「ふじみの」第五十五号発行によせて

東京農業大学農学部畜産学科同窓会

会長 栗原良雄

「ふじみの」第五十五号発行おめでとうございます。

卒業生の皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。

これからは畜産学科同窓会のメンバーになります。大いに歓迎いたします。

畜産学科は、一九四二年（昭和二十二年）千葉県茂原市に千葉農学部専門部畜産科として増設、一九四九年（昭和二十四年）新制大学農学部畜産学科として創設されて七十二年（六十九年）の歴史を持つ、全国大学の中で唯一の畜産学科です。その卒業生として誇りを持って活躍されることを期待しています。

畜産振興会



東京農業大学畜産振興会 便り

東京農業大学畜産振興会

会長 半澤 恵

東京農業大学畜産振興会が発足して、二十八年が経ち「ふじみの」に便りを執筆する時期となりました。まず本会の発足の経緯やこれまでに実施した事業について紹介します。

本会は平成二年十二月一日、不慮の交通事故により残念にも尊い一命をなくされた江渡宗徳君（当時畜産学科二年在学中）のご両親から賜ったご寄付を農学部畜産学科及び大学院農学研究科畜産学専攻に所属する学生諸氏の奨学に生かすことを目途に、平成三年三月二十三日に学校法人東京農業大学の認可を得て設立されました。資産には、東京農業大学畜産学科同窓会からの寄付金（設立時）、賛助会員会費（受領実績・延べ八百六十四名）、一般寄付金（受

最後になりましたが、これまで畜友会の役員をはじめいろいろな行事で活躍をされた方、大変ご苦勞様でした。収穫祭をはじめ諸活動でいろいろな苦勞があったと思います。その中で得た経験は貴重です。それを大事にして下さい。

現在、役員をされている方、学科名は違いますが先輩として仲良く一緒に頑張ってください。苦勞が多いと思います。同窓会は、皆さんの活動を応援させていただきます。

以上

平成三十年十二月

領実績・延べ百十一名）を加えて運営してまいりました。会の運営は、学内外の卒業生ならびに学科教員を中心とする会の役員としてご対応頂いてきました。

具体的な事業内容として、平成三十一年一月現在、成績優秀者の奨学生への採用（毎年二、四年次生各学年一名、計六名、延べ百名・平成三十年度迄）、優秀卒業論文賞の授与（毎年一名、計二十七名・平成二十九年度迄）を行ってきました。これらに加え、過去には姉妹校短期留学生並びに渡米農業実習生への交通費の一部支給（八名）、関連学会への学術論文掲載や学術集会での発表に対する奨学金（二百七十五名）、ならびに経済的に困窮した学生への奨学金の一時貸与も行いました。さらに平成九年四月の厚木キャンパス開学から二年間は、本キャンパスには研究室が存在せず学生のみという状態だったことを鑑み、学生への教材提供の意味から平成九年には乳用子牛雌一頭、同十年にはリヤマ雌雄各一頭、そして同十一年には黒毛和種子牛一頭を寄贈しました。これらの家畜はいずれも、厚木キャンパスでお披露目の後、本学富士農場に繋養されました。

あれからはや二十一年が経過し、本年三月には厚木キャンパス育ちの第十八期の農学部畜産学科学生ならびに第十六期の大学院農学研究科畜産学専攻博士前期課程学生および第十三期の大学院農学研究科畜産学専攻博士後期課程学生が卒業します。

さて昨年四月からの農学部改組に伴い、畜産学科はその名称を動物科学科に変更し新入生を迎え、早一年が経過としていきます。こうして畜産学科卒業生を送り出すのも今

回を含めて残すところあと三回です。一抹の寂しさは禁じ得ませんが、それ以上に諸君が胸を張って畜産学科卒業生と云えるように、送り出す側として畜産学科に誇りを持っていることをお伝えしたいと思います。

諸君、畜産学科卒業おめでとう。諸君が本学で培った実学力をフル活用し、新たな立場、新たな環境で多に活躍されることを、また在学生にはかけがえのない学生生活を充実したものとされることを祈念し、振興会便りいたします。

研究室だより

家畜繁殖学研究室

家畜繁殖学研究室は桑山岳人教授、岩田尚孝教授、白砂孔明准教のご指導のもと、大学院生二十三名、四年生三十九名、三年生三十五名で構成され、生徒同士で協力し合いながら日々の研究に取り組んでいます。

当研究室では動物の生殖や発生のメカニズムの解明に取り組んでいます。具体的には、生殖細胞、胚、それに由来する動物の産子の正常性におよぼすストレス、加齢そして疾病の影響について、遺伝子やタンパクの発現、内分泌そして動物の行動などを対象に研究しています。また発生工学および生殖補助技術を応用して、絶滅危惧種などを含む動物の遺伝資源の保存や増殖に役立てる技術の開発をめざしています。

三年生は生殖学の基礎的な知識、実験方法を身に付けると共に大学院生や四年生の研究活動を補助しながら興味のある研究分野について理解を深め、研究テーマを決定し日々先輩たちの指導の下研究を行っております。

当研究室では国内や海外で行われる学会にも積極的に参加し、その成果を論文として関連学会に発表しています。毎日遅くまで研究に励んでいても研究熱心な研究室です。

研究室の主な年間行事は、新入室員歓迎会（四月）、論

文発表会（年数回）、収穫祭の文化芸術展での研究発表、スポーツ大会（年二回）、サッカー大会（年数回）、研修旅行、忘年会、卒業生送別会等があります。
繁殖学研究室は日々の研究、勉強と楽しい行事を両立しながら充実した研究室生活を送っています。

氏名 卒業論文題目 指導

青木 漱吾 若齢・老齢ウシ胚盤胞期胚と発生培地中 cfDNA量の関係 桑山 岩田

池谷 陽 カピバラの糞中性ステロイドホルモンの長期的データ収集による繁殖生理の解明 桑山 桑山

石井 遼 SIRT1の発現抑制がウシ初期胎卵胞由来卵子の体外発育に及ぼす影響 桑山 桑山

市川 佳奈 ブタ卵胞液中の cell-free DNA量と卵子の能力の関係 桑山 岩田

市川 遥翔 IL-1 α 、IL-1 β はウシ卵管上皮細胞の炎症を引き起こす 岩田 白砂

稲垣 悠平 S100A8がプロジェステロン濃度に及ぼす効果について 岩田 白砂

井上 晃佑 カピバラの被毛中コルチゾール濃度の測定 桑山 白砂

井上 咲耶 cfDNAと卵子の発育能力の関係について 桑山 岩田

今井恵久美 インターフェロン τ (IFNT) のヒト胎盤組織における効果の検討 岩田 白砂

潮田 夏澄 ブタ初期胎卵胞における自然多糖類ゲル培養システムの効果 桑山 岩田

宇津野 充 カピバラの採精のための器具作製 桑山 白砂

大垣 有郁 妊娠高血圧腎症に対するサプリメントA C11の影響の基礎的検討・AC11によるsFLT1の分泌抑制効果 岩田 白砂

大西 崇仁 ウシ卵管上皮細胞の細胞老化について 岩田 白砂

片桐 迅人 カピバラの膣スメア検査による発情周期の研究 桑山 白砂

金丸 祐希 飼育環境の変化によるカピバラの行動変化 桑山 白砂

川村 直樹 カピバラにおけるハズバンダリートレーニングを用いた採血方法の確立 桑山 白砂

北澤颯一郎 培養培地の量が卵子顆粒層細胞複合体に与える影響について 桑山 岩田

黒見ひかり カピバラの被毛中コルチゾール濃度の測定 桑山 白砂

小菅 桃子 カピバラの採食エンリッチメント フィーダーの変化による採食の違い 桑山 白砂

坂々 ゆり ブタ顆粒層細胞の凍結におけるミトコンドリアの障害の検討 桑山 岩田

佐藤 志保 カピバラにおけるハズバンダリートレーニングを用いた採血方法の確立 桑山 白砂

佐藤 駿也 就巢性と甲状腺ホルモンの関わり 桑山 白砂

砂原香夏子 長期不受胎牛大規模調査 岩田 白砂

竹岡 美咲 胚盤胞期胚のDNA量と培地中の cell-free DNA量の関係性について 桑山 岩田

立松 薫 ウシ初期胎卵胞由来卵子の体外発育と cell-free DNAの関係 桑山 岩田

谷 久美子 ヒトSTOX1遺伝子過剰発現マウスの表現型の検討 岩田 白砂

中村 慎佑 Resveratrolによる前処理がガラス化凍結融解後のウシ初期胚に及ぼす影響 桑山 岩田

新國 寛也 カピバラにおけるハズバンダリートレーニングを用いた採血方法の確立 桑山 白砂

平田 良樹 β -ヒドロキシ酪酸および酪酸ナトリウムがヒト妊娠免疫機構に及ぼす影響 岩田 白砂

藤田 宙美 季節が卵胞液中のcfDNAに及ぼす影響 桑山 岩田

古谷 麗美 胚盤胞期胚のDNA量と培地中の cell-free DNA量の関係性について 桑山 岩田

本間 雅也 ウズラの去勢が拘束ストレスによるコルチコステロン分泌反応に及ぼす影響 桑山 白砂

水野 佳穂 IL-1 α 、IL-1 β はウシ卵管上皮細胞の炎症を引き起こす 岩田 白砂

南村 昌孝 家禽の科間雑種の雌雄判別 桑山 白砂

山上 恵子 黄体内マクロファージの性質とプロジェステロン濃度の関連性 岩田 白砂

吉田 崇将 動物の抜去毛を用いた細胞培養方法の確立 桑山 白砂

和田 采乃 家禽の科間雑種の拘束ストレスに対するコルチコステロン分泌反応について 桑山 白砂

加藤 孝典 カピバラの糞中性ステロイドホルモンの長期的データ収集による繁殖生理の解明 桑山 白砂

家畜育種学研究室

私たち家畜育種学研究室には四年生三十八人と三年生三十六人が所属しています。研究室ではいつもみんなが和氣藹々としています。四年生同士の仲が良いのはもちろんのこと学年を問わず、家畜育種学研究室の全員が楽しく過ごしています。というのも、今年度のメンツの初顔合わせである三年生歓迎会の時に、すぐに三年生と四年生が意気投合しました。三年生はノリがよいだけでなく、真面目な子が多いので、早い時期から先輩の研究を手伝っていました。それに負けじと四年生もメリハリをつけ、ふざけるときはふざけ、やるときはやるという雰囲気の中、研究を進めることが出来ました。今となつてはかけがえない仲間たちです。また、この研究室にはかわいいうつろいながらも、最近ではたくさんの子ヤギが生まれ、オス7匹、メス十匹の計十七匹が元気に育っています。世話を当番制でしており、正直朝早起きするのは面倒だったりもします。しかし、エサをあげる際に一目散に駆けつけてくる姿を見ると、そんな気持ちも吹き飛びます。教授や院生も含め、面白おもしろい愉快な研究室です。

氏名 卒業論文題目 指導教員

浅井 洸也 ウシの肉質関連遺伝子型に関する研究 野村

金内 悠太

池田 智佐 日本におけるマンクスロフトン種の遺伝的的特性の解析 米澤

鈴木瑠璃子

徳田菜祐子

山下 真愛

石上 明香 TOKYO X維持集団における遺伝的多様性の推移 米澤

呉 珍 慈

長藤 里奈

成田 千夏

石見 菜奈 神津牧場ジャージー牛の泌乳能力における米澤泉 智花 検定年・月の効果

岩本はるか ニホンイノシシ集団における遺伝的多様性とブタ遺伝子流入に関する研究 高橋

河内 楓

小林 千紘

関田 桃子

中村 行野

安田 幸平

大石 惟人 マイクロサテライトDNA多型情報に野村大高 祥子 基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究 片桐 翔太

小熊 由希 Y染色体遺伝子とミトコンドリア野村清水 宜子 DNA多型情報に基づくニホンイノシシの系統遺伝学的研究

上村 尚

佐藤 麗子

澁谷 夏美

田中菜穂子

北澤 亮太

藤森圭太郎

坂本 敦司

若林 尚紀

渡部 竜也

関 和真

平尾安佐子

森 建介

森山 敬介

若原 廉

十勝地域におけるホルスタイン種泌乳能力に及ぼす年・月・産次・乳期の影響

ニホンミツバチとセイヨウミツバチの系米澤統遺伝学的研究

ヤギ繁殖形質関連遺伝子の検出と多型に野村

家畜生理学研究室

家畜生理学研究室では半澤惠教授を筆頭に、平野貴教授、原ひろみ助教指導のもと、大学院生一名、学部四年三十五名、三年三十五名、総勢七十四名が所属しています。

本研究室ではウシ、ニホンウズラ、ウマなどの家畜・家禽や野生動物の生理的機構解明やその原因遺伝子の探索など幅広く研究をしています。

年間の活動として新入室員歓迎会、OB・OGとの交流会、大掃除、年二回の納会、収穫祭文展・模擬店の出店、研修旅行、卒業生歓送会などの行事があります。毎日実験動物の世話をしながら研究を進めています。新入室員の三年生は実験知識や技術を習得するために実験実習をした後、卒業論文の前駆体として課題別実験を行い、各自実験・調査をします。四年生は今までに課題別実験などで習得した知識・技術を持って、卒業論文に励み、成果を出します。院生は自身の研究の傍ら、学部生のサポートをしてくれます。週一回のゼミナールを軸に卒業論文発表会や課題別実験成果発表会に向けて各々日々研究に取り組んでいます。

氏名 卒業論文題目 指導員

市川 興	ミトコンドリアDNAによる家畜生理学研究室のニホンウズラの系統分類	半澤 原
岩根 知咲	ウズラ卵白中の抗菌物質に抵抗する盲腸由来細菌の探索	半澤 原
荻谷 哲也	脂肪交雑に関する量的形質遺伝子座BTAL1-4cMの効果検証	半澤 野
加瀬 悠	ニホンウズラの成熟に伴うTOS培地を用いた腸内細菌の変化の調査	半澤 原
北山 新夏	ウマのMC1RおよびASIP遺伝子における塩基配列の解析	半澤 澤
功刀 亮	ニホンウズラ幼雛の好気性培養で得られた腸内細菌16S rRNA遺伝子による同定	半澤 原
坂上 憂介	黒毛和種子牛死亡の候補領域に位置する多型の解析	半澤 野
坂本 大貴	黒毛和種におけるRBP14遺伝子上流域の多型探索	半澤 野

柴田 亮太 競技馬の運動内容及び状態別における赤血球浸透圧脆弱性と赤血球性状の年間変動

菅原 満 黒毛和種下顎短小腎無形成症の候補遺伝子であるPITPN1の多型解析

園原 健太 ウズラの系統・雌雄間における体重、臓器重量の差異

高木 駿介 黒毛和種子牛死亡の候補遺伝子であるSYTL2の変異探索

高橋 亮吾 乳牛の乳汁中体細胞数および産乳形質とIL8多型の関連解析

高橋 夏未 メキシカンヘアレスピッグの皮膚色に関する遺伝子領域の探索、I

千葉 恭平 ウマ赤血球膜脆弱性の差異と膜構成成分の関連の解析

永田 裕佳 黒毛和種のSCD p.A293V多型と枝肉形質の関連

中村 真実 ウズラ卵白中の抗菌物質耐性盲腸糞由来細菌の16S rRNA遺伝子による同定

西尾 春風 ニホンウズラCD1遺伝子領域の組み換え位置の検索

西川 靖子 ニホンウズラのTLR4対立遺伝子の調査

羽根田直輝 マメジカのミトコンドリアDNA塩基配列による解析

広内 翔 競技馬の運動内容及び状態別における赤血球浸透圧脆弱性と赤血球性状の年間変動

松岡 亮太 黒毛和種高知系における枝肉形質関連遺伝子の効果検証

美崎 颯太 黒毛和種(石垣牛)の母牛の外観と産子成績の関連

水谷日奈子 餌形状の違いによる腸管発達とHSP47発現の組織的解析

村田壮一郎 同条件で肥育した同一種雄牛産子の母方ハプロタイプと枝肉形質の関連

森田 康介 メキシカンヘアレスピッグの皮膚色に関する遺伝子領域の探索、II

山田 一生 黒毛和種の早産を伴う虚弱子牛症候群と半澤

連鎖する18番染色体の原因遺伝子探索 平野

山田健太郎 黒毛和種のSCD遺伝子3UTRの半澤
SNPsと枝肉形質の関連 平野

山田 翔馬 ニホンウズラの個体識別用マイクロサテ半澤
ライトマーカーの多型解析 平野

吉田 智尋 メキシカンヘアレスピッグの被毛数に関半澤
する遺伝領域の探索 平野

家畜飼養学研究室

家畜飼養学研究室は庫本高志教授、林田まき准教授、黒澤亮助教のご指導の下、四年生三十人、三年生三十五人で構成されています。

動物の生理的恒常性を維持するために必要な栄養素やその消化、吸収、代謝について基礎栄養科学的手法から分子生物学的手法や新しい分析手法を用いた幅広い研究を行っています。ウシやブタ、ニワトリなどの産業動物だけではなく、マウスやミミズなどの小動物、ウズラやダチョウなどの鳥類、野生動物であるエゾシカなど様々な動物を研究対象としています。

研究室活動は、室員の交流や団結力を深めるために歓迎会や納会など様々な行事がありました。収穫祭への参加(文学術展・Feed world 2 炎の王国 模擬店・ダチョウとウズラの焼き鳥)、スポーツ大会(年数回)、大掃除、卒業生祝賀会、OB・OG会などがあります。研修旅行では、まかいの牧場や丹那牛乳工場の見学、夜には富士農場でBBQなど、様々な行事やイベントを行いました。

先生方は実験や実習の場、授業においても優しく丁寧に指導を戴けるので、勉学や実験技術について深く学ぶことができます。

平成三十年度の卒業論文題目は以下の通りです。

氏名 卒業論文題目 指導
教員

池田 和 ヤギの臓器における標本作成 林田

唐橋 優哉 林田

岡 彩子 生殖周期ごとの牛乳中脂肪酸組成及びエ 林田
山上 大夢 ストロゲン濃度の測定 林田

開地 智世 東京農業大学富士農場 庫本

本郷 広夏 庫本

水野 凪 庫本

風間 凜斗 野菜屑給与におけるダチョウの嗜好性 黒澤

山崎 若菜 黒澤

木曾 大樹 ディスカスを用いた体色遺伝子のDNA 庫本
櫻井かりん マーカーの作成 庫本

黒澤 彩香 ラットモデルを用いたアトピー性皮膚炎 庫本
小早川楓子 原因遺伝子の同定 庫本

佐藤 麻衣 庫本

三重野杏花 庫本

小暮 恵 福島県北塩原村における地域おこし エ 林田
ミューの飼育について 林田

小林 咲季 Prkar1b 変異ラット 庫本

山口 莉奈 庫本

酒見 樹 産卵廃鶏の摂取栄養を抑制した後に再肥 黒澤
育した際の肉量の向上 黒澤

高橋 泰葉 大根牛を創るウシkit遺伝子を標 庫本
道前遼太郎 的としたガイドRNAのデザイン 庫本

萩原真利子 二見 賢人 庫本

土屋 美咲 ウズラの各栄養素バランスに対する反応 黒澤
続池 直哉 黒澤

長谷川合欽 自家製発酵飼料の給与が豚の健康と肉質 黒澤
山崎 友輝 に及ぼす影響 黒澤

古川 優宏 ミミズの飼育の確立 林田

前田 一哉 林田

森山 綾花 ウマの飼料消化率の変動要因の調査 黒澤

畜産物利用学研究室

本研究室は、多田耕太郎教授、入澤友啓准教授のご指導のもと、大学院M1生二名、四年次生三十一名、三年次生二十五名、総勢五十八名で構成されており、先進的な加工・分析技術を用い、新しい畜産食品の研究開発に取り組んでいます。

主に、乳・肉・卵に含まれる各種成分の化学・物理的特性や栄養・生理的機能特性を品種、個体、分子レベルで研究しています。また、先進的な食品加工技術である超高压処理を用いた新しい畜産食品の研究開発、有用微生物による発酵を利用した畜産発酵食品の研究開発、さらには未利用状態にある畜産副産物（内臓、皮など）を活用する研究を行っています。

得られた研究成果を通じて食品の機能性や保存性の向上、製品加工工程の改善および新しい加工法の開発に利用されています。

研究活動では、三年次にハム・ベーコンをはじめとする各種畜産食品の製造実習、また食品の一般成分分析や生菌検査等の実験手順や操作方法を学び、四年次の卒業論文実験に活かして、より精度の高い研究を重ねていきます。年間を通して、新入生歓迎会、総会、納会、研修旅行、卒業論文発表会、卒業生送別会等を行い、互いの絆を深め、研究室の更なる発展目指して活動しています。

氏名 卒業論文題目 指導員

荒井 惟吾	高压処理を応用した冷凍畜肉製品の開発	多田 入澤
金井 颯	に関する研究	多田 入澤
荒木 智也	ホロホロチョウの肉・卵が有する加工特性の解明に関する研究	多田 入澤
若林 伸悟	に関する研究	多田 入澤
石井 幸子	麩を用いた豚皮発酵食品の開発に関する研究	多田 入澤
鈴木 華子	研究	多田 入澤
伊藤 彰馬	冷凍による牛乳の性状変化に関する研究	多田 入澤
本木 健太	に関する研究	多田 入澤
大塚 早帆	液体麩を用いた畜産発酵調味料の開発に関する研究	多田 入澤
妹尾 翔	に関する研究	多田 入澤
中村 優希	に関する研究	多田 入澤
田熊 祐介	に関する研究	多田 入澤
岡田 常哉	高压処理を用いたソーセージ様食品の開発に関する研究	多田 入澤
越 啓鷹	に関する研究	多田 入澤
小倉 真人	日齢差が与える「東京うこっけい」の肉質への影響に関する研究	多田 入澤
宮本志緒里	に関する研究	多田 入澤
尾林 秋也	発酵卵製品の開発に関する研究	多田 入澤
松本 舞子	に関する研究	多田 入澤

城島 優菜 乳酸菌を添加した発酵ソーセージの製造
小杉 健太 に関する研究 多田 入澤

幸島沙久良 高压処理が複合系原材料中のタンパク質
和田 未来 のゲル化に与える影響に関する研究 多田 入澤

後藤 利徳 ホエイの新規利用法に関する研究 多田 入澤

小宮 里菜 大規模生産を目指した畜肉発酵調味料の
榎橋 凜 開発に関する研究 多田 入澤

櫻沢 実奈 ホエイの新規利用法に関する研究 多田 入澤

中村 葵 豚内臓を用いた新規ソーセージの開発に
沼田 真友 関する研究 多田 入澤

吉田 哲 新規発酵乳製品の開発に関する研究 多田 入澤

鈴木 愛美 日本と海外における酪農及び畜産物の歴史・
渡辺 雄太 現状調査 多田 入澤

家畜衛生学研究室

家畜衛生学研究室は、加田日出美教授、鳥居恭司准教授、小林朋子助教のご指導の下、大学院生二人、四年生三十一人、三年生三十五名で構成されています。本研究室では、各自で希望する家畜別に牛班、豚班、鶏班、実験動物班の四班に分かれ、動物たちの健康を維持するとともに飼育管理を通して各動物たちへの接し方、育て方を日々学んでいます。

調査研究としては、家畜衛生及び食品衛生を対象に農場や食肉のサルモネラ汚染、農場における牛白血病の感染要因や遺伝子解析、カビの汚染や発育、嫌気性菌・毒素の研究、などを大学院生、学部生と共に進めています。また収穫祭の文展では身近にある食中毒についてまとめました。内容としては、細菌の感染ルートにどのようなものがあるか、普段行っている手洗いでどれだけの菌が洗えているのかを実際に体験していただいたり、嘔吐したときの飛距離やどのような菌が潜んでいるかを知っていただいたりしました。それに加えて対処法や注意喚起なども行いました。主な行事として、月二回の定例会、新入生歓迎会、収穫祭、研修旅行、年明けには餅つき、慰霊祭があります。これらの行事を通して各員は団結を深め、個々が目的を持って有意義な研究室活動を行っています。なお、平成三十年度の卒業論文の題目は次の通りです。

氏名 卒業論文題目 指導員

石橋 郁実	マウス精巢凍結保存方法	加田
大平 祐輔	乳房炎ワクチンの効果測定	野口
沖田 渚	ウェルシュ菌の毒素について	鳥居
織田 聡美	乳房炎ワクチンの効果測定	野口
國井 和恵	BoNT (ボツリヌス神経毒素) の毒性評価	鳥居
小池 清貴	肉由来の菌における検出実験	鳥居
小菅 将太	<i>Salmonella Agona</i> および <i>Salmonella Infantis</i> の細胞侵入性における病原性の評価	鳥居
小林 七実	破傷風菌、毒素の研究	鳥居
小松 夏水	神奈川県B市におけるBLV感染実態と浸潤調査	小林
齊藤 稔	無薬飼養による豚の血液性状への影響について	野口

酒井 祐希 国内産市販鶏肉由来サルモネラの薬剤感鳥居
受性試験

佐藤 来美 神奈川県における犬のSFTSウイルス加田
抗体検査

繁田 大輔 肉由来の菌における検出実験 鳥居
高野友李帆 食鳥処理場搬入ブローラーにおける病理村上
学的評価

多田 篤志 牛白血病ウイルス感染牛におけるLDH小林
の測定

多田 匡宏 肉由来の菌における検出実験 鳥居

田中 千陽 汚染カビに対する消毒の有効性 鳥居

田中嶋遼太 *Salmonella Agona* および *Salmonella Infantis* 鳥居
の細胞侵入性における病原性の評価

築比地康平 マウス卵巣組織の凍結保存に関する研究 加田

永井 秀和 乳房炎ワクチンの効果測定 野口

永井 祐伍 破傷風菌、毒素の研究 鳥居

中西 貫二 *Carto* を使った牛白血病に関する統計小林
データの視覚化

秦 大樹 BoNT (ボツリヌス神経毒素) の毒性評価 鳥居

原 萌子 空間除菌によるカビ対策 鳥居

福田 一真 兵庫県における牛白血病ウイルス感染牛小林
のMHCハプロタイプ解析

星野 祐介 神奈川県B市におけるBLV感染実態と小林
浸潤調査

眞島 千晶 GFP発現BLV_{env} シュードタイプレ小林
ンチウイルスベクターの作製

増田 寛子 山梨県及び千葉県食鳥処理場搬入ブロー鳥居
ラー *Salmonella* 汚染調査

山崎真美子 ウェルシュ菌の毒素について 鳥居

佐藤 里菜 BLV感染とEBL発症に関連するTN小林
F_{1a}の遺伝的多型調査

山信美佐子 鶏肉中のサルモネラ汚染調査 鳥居

二度目の新人

動物衛生学研究室

加田 日出美

ふじみのの原稿依頼を頂いた。ふじみののつて何だろと、過去の先生方の原稿を見せて頂いたところ、新人の先生方が寄稿されるものらしい。正直なところ、新人じゃないんだけどなという感想を持った。でも、世田谷と勝手が違って、研究室の先生方を頼り切っているなんてまるで新人なので、新人ということにしておきましょう。改めて自己紹介などを書かせて頂きます。

父が銀行員であったため、私は両親の転勤先の水戸で生まれましたが、両親の実家は伊豆の下田で、私の根っこもそこにあるのではないかと思います。幼稚園時代は京都で過ごし、その頃子分(?)にしていた男の子は立派に小児科医をしています。ちょうど小学校に上がる年に東京に転勤になり、小学生時代を東京で過ごし、中学になる時にまた親が転勤になったのですが、私はそのまま東京に留まり今に至っています。中高と女子高で、英文科など文系に進むのが一般的な学校でしたが、その頃増井光子さんが女性獣医師として脚光を浴びていたので、それに影響され高校二年で文系から理系に大胆に方向転換して進路指導の先生を慌てさせました。大学は家から近いという何とも単純な理由で日大の獣医を目指してどうにか引つかり、四年制の獣医に滑

り込むことができました。この進路選択は、後に嫁に行かないと母を後悔させることになりましたが。

獣医卒業後は、母の知り合いの産婦人科の教授に研究を手伝って欲しいと頼まれ、アルバイト感覚で研究生活に入り、動物の染色体や習慣性流産の患者さんの染色体検査などを行なっておりました。幸い獣医時代の恩師も、産婦人科教授も非常に可愛がってくれ、比較的時間があるのだからと、大学院と二足のワラジを履かせてもらい、医学部の博士課程まで終えることができました。医学部時代はこそ色んな仕事をさせられて大変なこともあったのですが、問題解決力に繋がっていると感謝しています。

博士課程が修了しても研究関係の就職先があるわけでもなく、そのまま講師をしていた医療系の専門学校に留まることになったのですが、その話が決まった数ヶ月後に東京農業大学短期大学の講師のお話を頂き、お世話になることになった次第です。

短大ではおよそ三十年間を過ごし、その間研究の基盤となる、ジャクソン研究所への留学の経験もさせて頂きました。何よりも感謝しているのは、意欲的な教え子たちに恵まれたことで、卒業生は、研究職、実験動物技術者、胚培養士など、短大では通常考えられないような良い職場で活躍しています。私の方は至つてのんびりなのですが、何故か学生達はデキる先生と嬉しい誤解をしてくれているようで、これまでの学生達には本当に感謝しています。

動物科学科では新人ですが、動物科学科一期生と一緒に私も卒業になります。

短い間ではありますが、学生達にはかけがえない期間に、より多くの経験を積んで欲しいとの思いで努めさせて頂こうと考えております。

経験、人、タイミン

動物栄養学研究室

庫本 高志

新入生、卒業生の皆様、2018年4月より東京農業大学にお世話になっております庫本高志(くらもとたかし)です。よろしくお願ひいたします。この場をお借りして、自己紹介と私が東京農業大学にお世話になろうと思つた理由を述べさせていただきます。

私は1967年大阪府吹田市に生まれました。大学は、京都大学農学部(畜産学)です。家畜育種学の研究室に属していましたが、研究は医学研究科の動物実験施設で行いました。テーマは、生まれつき脳がスポンジ状になるラットの遺伝解析でした。遺伝解析にはDNAマーカーというツールが必要なのですが、当時、ラットのDNAマーカーは非常に限られており、十分な遺伝解析ができませんでした。ところが、マイクロサテライトマーカーという新しいタイプのDNAマーカーを利用してできるようになり、これまで何週間もかかっていた遺伝解析が、ほんの数日でできるようになりました。そして、スポンジ脳症の原因となる遺伝子を見つけることができました。

ちょうどそのころイギリスでは、ウシのスポンジ脳症(狂牛病)が流行っていました。我々が見つけた遺伝子が狂牛病の原因かもしれないということで、大変興奮した覚えがあります。この体験が、私を博士課程に進学させました。

学位取得後、国立がんセンター研究所を経て、2002年、京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設に異動しました。准教授として、十六年間、教育、研究、施設管理に取り組んできました。このように、動物実験、実験動物、

ラットの遺伝学については、いろいろな経験を持っています。

さて、私が、東京農業大学にお世話になろうと思つた理由ですが、二つあります。一つ目は、タイミンです。ちょうど医学系の動物実験施設か農学部(動物系)のポストを探していましたので、動物栄養学研究室の募集は、応募先としてふさわしいものでした。

二つ目は、大学時代の同級の岩田尚孝教授が動物科学科に在籍していたことです。彼のおかげで、農大の研究室や学生の雰囲気(が)分かり、安心して応募することができました。

三つ目は、栄養学の分野で、私がこれまで培ってきた実験動物学の経験が活かせると思つたからです。実験動物は、遺伝と環境が厳密にコントロールされた状況で飼育されています。さまざまな環境要因のうち、食べ物(は)重要な要因のひとつです。食べ物を変えることで、動物の反応は変わります。逆に、同じ食べ物でも、遺伝子が違えば動物の反応は変わります。つまり、実験動物をつかうことで、栄養因子における遺伝子の働きや、遺伝子の発現を左右する栄養因子を見つけることができます。栄養学研究室に蓄積された経験や研究材料を活用すれば、このような遺伝子や栄養因子を分子レベルで解明できると考えました。

以上、タイミン、友人の存在、経験が活かせる場、これら三つの理由で農大にきました。

動物栄養学研究室では、教員、そして学生たちと協力して、活気ある研究室を作っていきたいと思つています。今後ともよろしくお願ひいたします。

多くの出会いと寄り道の末に

動物栄養学研究室

林 田 ま き

世田谷キャンパスにある東京農業大学短期大学部の生物生産技術学科(短生)に十二年おり、平成三十年四月から動物科学科のスタッフとなりました。富士農場での合宿指導は六十回。新人とは言えない新人ですが、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。

長崎で生まれ、大学から修士課程までの六年間九州大学に通いました。動物の体の仕組みを教わったのは畜産学科に進級した二年生の後期です。幼稚園時代から動物に対する興味が普通でなく、「ネコは丸くなる時に手首を曲げる」とや「イヌが踵を上げて歩くこと」を語るほどでした。大学で動物の骨格や内臓が詳しく書かれた本の存在に感動し、四年生で家畜解剖学の研究室に入りました。また、附属農場のアルバイトで乳牛とトカラヤギの管理に携わって心を奪われ、牛乳と山羊乳を販売する牧場に就職しました。

ところが、濃厚飼料の多給に疑問を感じ、濃厚飼料を買えない途上国でなら草で生きる反芻動物に出会えると思いい、栄養学を勉強するために鳥取大学大学院連合農学研究科に進学しました(鳥根大学に配属)。フィリピンの農村でヤギにサプリメントやマメ科樹木の茎葉を与えて血液中ミネラル濃度を調べましたが、ゆっくりとした時間の流れで現地の学生と一緒に生活しながら、進まない実験と論文執筆に焦り、海外での研究における自分の無力さと、家畜がライブストックと言われる理由を痛感したところで博士号をいただきました。

その後、農業高校に一年半余り勤め、動物の面白さを語

り合えるスタッフと、一緒に感動してくれる高校生との出会いによって、「動物だけ」でなく「人」に関わる仕事に就きたいと思うようになりました。そして国際協力機構(ジャICA)の技術協力専門家として三ヶ月ブラジル北東部の半乾燥地に派遣され、緑化プロジェクトで植えた樹木の茎葉をヒツジに与えて消化性を調べました。ここで生態系や土木の専門家と出会い、「動物だけ」でなく植物のことも分かるようになりたいと思うようになりました。

帰国後は短大生と一緒に、エゾシカを捕まえて数ヵ月だけ飼育して肉を売るという北海道の一時養鹿事業に関わり、エゾシカ肉のミネラル含量の測定を続けています。また、インドネシアの農村でキャッサバやサツマイモの茎葉をヒツジに与え、ヒツジの糞尿と養殖池の泥を畑に還すという物質循環を目指して、他分野の専門家との共同研究も行いました。途上国の緬山羊と北海道のエゾシカの試験では、個体数が揃わなかったり途中で動物が食べられたりと、試験遂行の難しさに共通点があります。

皮肉なことに、他分野の専門家との出会いによって畜産のマイナーさを思い知らされました。人間が生きるために優先されるのは主食の穀物生産で、途上国では乳肉の生産に考えが及ばない地域もあります。日本でも「農業とは米や野菜を作ること」、「家畜は堆肥を生産するもの」との認識が多く、よく「どうして農業の学科で動物の実習？」と質問されたものです。「畜産」という食料生産が「農業」の一部と認識されていないというショックな気づきによって、途上国の作物生産と動物生産をつなぎたいと思うようになりました。

さて、動物栄養学研究室は分析機器の宝庫です。短生では見たことのない機械がたくさんあって夢のようです。専門でない卒論テーマに関わることになりましたが、おかげで視野が広がりました。廃棄される副産物を有効に活用す

ること、野生動物による被害を減らすこと、耕作放棄地に繁茂する植物を放牧利用して、人が集まるきっかけを作ること。これらに共通するキーワードが、実はエゾシカやヤギという「動物」ではなく、農村という場所や「人」だということに気がつきました。

これまでの全ての寄り道が今につながっています。これから「人」にどう関わっていくか、出会いを楽しみたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

東京農業大学農学部動物科学科に着任して

動物遺伝学研究室

米澤 隆弘

2018年4月から東京農業大学農学部動物科学科に勤務させていただいております。米澤隆弘と申します。早いもので、まもなく着任から1年を迎えようとしております。この場をお借りして多少なりとも自己紹介させていただきますだけばと思います。

私は動物の進化を研究しております。「進化と農学」というとちょっと奇妙な組合せに感じるかもしれませんが、実は農学こそが進化学の産みの親だったりします。家畜や栽培植物はヒトによって引き起こされた進化と言えます。メンデルが遺伝の法則を発見する遙か昔、文明の黎明期からヒトは身の回りの生き物を驚くべきほど多様に進化させて来ました。有名なダーウィンの自然選択説は、育種家たちが生み出す家畜の形態学的な変異にインスピレーションを受けて出来たものですし、現代の進化学の主流のひとつである集団遺伝学も農学者たちによって作られた分野です。

現在、私が興味を持っているのは、様々な家畜たちが世界の何処で、いつ家畜化され、どのようにして世界中に伝播していったのか、その過程を説明することです。とりわけニワトリやブタ、ヤギのような中小家畜は持ち運びが容易なためヒトの移動とともに世界中のどこにでも広がっています。ゲノムと言う長い長い糸を紐解きながら、その歴史を明らかにするとともに、形態学や動物考古学、民族学、言語学などの様々な視点からその実像に迫っていただくと考えています。私が所属している動物遺伝学研究室は

1960年代からアジア各地で野外調査を行いながら世界に向けてその成果を発信してきました。この伝統ある研究室で、ゲノムデータビッグバン時代と言われるいまだからこそ出来る研究を行っていただければと思います。

とは言いますものの、私は農学の正規の教育を受けてきていません。私は農大に着任する以前は理学の生物科学として進化を研究してきました。私は学部では古生物学を、大学院では分子進化学を専攻しており、その後は、中国・上海の復旦大というところで生命科学学院（学院は日本の大学と言う学部・研究科に相当します）に所属していました（上海での研究生活など、ご関心のあるかたは米澤2011、2016をご覧ください）。家畜の進化史を研究するうえで、分子遺伝学からどのような進化シナリオを提唱しても、畜産学の現場を知らなければ結局は虚しい机上の空論に過ぎないと感じています。

農学栄えて、農業減ぶ。このような机上の空論の陥らなためにも、私自身も学生たちと一緒に実学としての農学について学んでいければと思います。

〔引用文献〕

米澤隆弘 2011. 海外研究室だより 復旦大学・生命科学学院 日本進化学会ニュース12、24-27

米澤隆弘 2016. 研究奨励賞受賞記 失われた世界を求めて。進化学会ニュース18、28-32

*いずれも日本進化学会がインターネットで公開しています。

集う学友

厚木で出会った感謝

畜産学科

4年 酒見 樹

私は、福岡県の筑後市という何もない平凡な街の出身で、プロ野球球団の福岡ソフトバンクホークスの二軍本拠地があるくらいです。実家は農業をしているわけではありませんが、高校は農業高校に進学しました。そこで初めて、ウシ・ニワトリ・ウマ・ヒツジなどたくさんさんの家畜と触れとても面白い、楽しいと思えました。大学に進学するつもりはなかったのですが、恩師である先生から勧められ、畜産学科のある東京農業大学に進学することを決めました。

神奈川は都会だと思っていて不安しかありませんでした。しかし、厚木に着いてみると私の地元より栄えてはいるのですが、普通だなと思えました。少し残念な気持ちになりました。福岡から離れた地に住むことになりました。

大学に入って、高校時代も弓道をしてきたこともあり弓道部に入りました。二年までは弓道部の部員たちと過ごすことが多く、練習や遊びにバカになり取り組みました。三年時には主将になり部活を良くしようと思って行動しましたが、うまくいきませんでした。部員の皆さんご迷惑を沢山かけてしまいました、ごめんなさい。

三年生になり家畜飼養学研究室に入り、高校時代にはできなかった実験や初めて管理するブタやヤギなどの家畜を扱うことが刺激になり、頑張ろうと思いつき組みました。家畜と触れる機会が2年間でほとんどなく、何が実主義だ。と心の中でほんの少しだけ思っていたので、少しやる気が出ました。家畜達と触れたいなどやりたいことは自分で行動して探すことを学びました。皆さんも興味があることには自ら行動して、自分の経験値にすることをすすめます。また研究室に入って、ひげ班という謎の組織に出会い、意味のない頭の悪い会話を会ったびして、楽しい研究室生活を送ることができました。

単位、授業に関しては触れないでおきます。勉強はして将来困ることはありません、勉強はしましょう！

最後に、大学に入り様々な地域の友達ができ、東京農業大学に來なければできない経験させてもらいました。人間関係の変化、様々な考え方を持つ人たちに出会えたこと、私を成長させてくれた弓道部の先輩や後輩、そして主将としてふがいない私に最後まで協力をしてくれた同学年のみんな、家畜飼養学研究室の先生をはじめとする室員のみんな、ひげのみんな、関わってくれた個性の強い皆さんに心から感謝しています。ありがとうございます。

一生の仲間に出会えた

畜産学科

3年 小室 日向子

私は普通科高校を卒業し、東京農業大学の畜産学科に入學しました。私に通っていた高校は制服はなく、私服でかつピアス・髪染めが許されていました。卒業生の話を聞くとみな口を揃えて、うちの高校は大学よりも大学らしい、と言います。大学に進学した私も同じことを思いました。けれども大学はより自由です。指定の席も決まった時間割もなく、自分次第で物事が決まります。そのため、情報収集やスケジュール管理が大切です。公開されている情報は少なく、自ら探して集めなければなりませんし、部活やアルバイトをする人は自己管理ができなければ勉強と両立できません。私は大学生活で自己管理能力を伸ばすことができ、またよい仲間と出会えて、協力し合い乗り越えてきました。

よい仲間が出来たきっかけは、授業の座る場所でした。多くの生徒は真ん中より後ろに座りがちですが、私は一番前の席が好きで、いつもそこに座っていました。視力が低いのも理由の一つですが、なにより先生との距離が近いのです。質問もしやすく、授業中でもよく教授と一対一で会話をしていました。また、ノートを取る速さも最前列の私

に合わせてもらいやすいのも利点です。必修の授業が多い一二年では、特に毎回似たような席に座りやすいため、前の方に座っている生徒と次第に仲良くなりました。みんな畜産に興味があり、勉強や部活などに努力できる人ばかりです。そんな仲間と勉強する環境は居心地が良く、私も努力しようという気持ちにさせてくれます。そして学期末のテストでも仲間と協力しながら、教え合い励まし合うことができました。

偶然ですが、その仲間の多くは教職をとっており、三年になった今でも一緒に授業を受けています。教職の授業でも切磋琢磨しながら勉強しています。模擬授業を見せ合ったり、教育について議論したりと、充実した毎日を送っています。課題や勉強に追われて疲弊したときには、教職の仲間と遊んだりもしています。高校までの友達との付き合いよりも深い関係になれている気がします。高校の友達と遊ぶのも楽しいですが、今は大学の仲間という方が素でいられる気がするのです。

親戚や周りの大人から、大学時代の仲間は一生の付き合いになることが多いよ、と聞かされてきました。それを今実感しています。自分というものがほぼ完成し、一番合うタイプと付き合うようになるのが、ちょうど大学時代に当たるのだと思います。私は、一生の仲間と出会えた気がします。

仲間と過ごすこの時間が、もつと続けばいいのに。

人生夢と目標を忘れるな。

畜産学科

2年 井 郷一郎

農大に入學して、もう半分が終わろうとしている。入學式で「勉強に力を入れよう」いままで部活しかやってこなかった僕はそう思った。そして半分が終わろうとしている今の僕はと言うと、逆に勉強をろくにしていなかったせいで当然勉強に力が入る訳もなく、いろんな誘惑に負け、毎日が過ぎていった。

そんな僕にも夢と目標はある。実家は某大手企業の牛を三百頭程預託されている。でもやることは普通の牛飼いとそこまでかわらない。そんな環境で育った僕は小さい頃から両親の手伝いをしてきた。そのおかげで勉強はできない分リアルな現場を少しは知っているため、今の学校生活に活きている。

十一月に熊本子牛市場で日本記録を塗り替えた出来事がおきた。子牛が六四八万で競り落とされたのだ。これは熊本での最高価格であり、日本の最高価格にもなった。いろんな条件が揃ったからこそ、ここまで値段が上がっていったのかもしれないが、いい牛であることには間違いない。将来的に僕は実家に戻ったら預託の牛だけでなく、自分の牛を増やし、一貫経営をしたいとおもっている。

そこで僕の目標とは何か。それは熊本と日本の子牛最高

価格を塗り替えることだ。これを読んだ方はバカだと思っても構わない。そう思われても僕がやりたいことなのだから関係ない。その目標を実現させるためにはまず、牛の生殖について学ばないといけない。人工授精や、受精卵の受胎率などを具体的に学びたいと思っている。したがって家畜繁殖学研究室に入りたいと思っているが、GPAが足りない。そう、最初説明したとこに戻るのだ。もう2年は終わろうとしている。GPAを上げるには後期のテストでいい成績を残すしかない。

僕が大学にきた理由は畜産について学ぶためだけに来たわけではない。人脈を増やすためにもこの大学を選んだ。東京農業大学という全国に名が知れ渡っている大学なので、当然全国各地から人が集まる。現に各地からきた友人と出会うことができた。その友人の中にはいろんな奴がいる。勉強に熱心な奴から、バイトと勉強を両立する奴、バイトを頑張りすぎて勉強がおろそかになっている奴、そしてギャンブルが大好きな奴。僕は人間観察が好きだ。僕を知っていてこれを読んだ友人は驚くかもしれない、普段こんなキャラクターではないからだ。僕は学校生活でこうゆう友人たちからいろんなことを学ばせてもらっている。ちなみに僕はさっき紹介した奴のどれに当てはまるかはご想像におまかせする。僕はいろんな個性を持った友達と毎日を楽しく過ごせているので、卒業後も付き合っていきたい。

最後に僕の夢は、和牛一貫経営で世界に肉を販売していくことだ。この夢と目標を忘れずに、大学生活をこれからも有意義に過ごしていきたい。

平成 29 年度 畜友会 収支決算報告

収支決算書 平成 29 年 6 月 1 日～平成 30 年度 5 月 31 日

I. 一般会計

収入の部

(単位：円)

科 目	決算額	予算額	差 額	備 考
過年度分会費	10,000	0	△ 10,000	
普通預金利息	32	50	18	
前年度一般会計繰越金	4,440,722	4,440,722	0	
合 計 (A)	4,450,754	4,440,772	△ 9,982	

支出の部

(単位：円)

科 目	決算額	予算額	差 額	備 考
収穫祭特別会計費	348,648	523,000	174,352	
ふじみの印刷費	270,799	250,000	△ 20,799	卒業生 194 名 + ふじみの制作委員 16 名
卒業祝賀会費	0	180,000	180,000	
卒業記念品費	173,930	193,000	19,070	745 円 × 194 名 + 版代 10000 円 + 印刷代 19400 円
新入生歓迎会費	0	150,000	150,000	
消耗品費	0	30,000	30,000	
備品	0	50,000	50,000	
畜友会費返還金	2,097,500	2,152,500	55,000	
雑費	6,804	30,000	23,196	振込手数料 + 冷蔵庫リサイクル料
予備費	0	882,272	882,272	
合 計 (B)	2,897,681	4,440,772	1,543,091	
収支差額：(A) - (B)	1,553,073	0	△ 1,553,073	次年度繰越金

平成 30 年度 畜友会 活動報告

平成 30 年 6 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

畜友会だより

平成 30 年

- 6 月 18 日 平成 30 年度畜友会定期総会
平成 30 年度畜友会・畜産学科・動物化学科収穫祭実行委員会
(統一本部) の立ち上げ
(於 第一講義棟 1102 教室)
- 10 月 3 日 第 19 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 127 回体育祭厚木団結式 出席
(於 レストランけやき)
- 10 月 17 日 厚木パレード 参加
- 11 月 1 日 豊受大神宮奉獻式 参加
- 11 月 2 日 第 19 回厚木キャンパス収穫祭 前夜祭 参加
- 11 月 3 日 第 19 回厚木キャンパス収穫祭 参加
～ 4 日 (家畜苑、研究棟アート、神輿展示、特別企画、宣伝隊)
- 11 月 5 日 第 127 回体育祭 参加 (於 世田谷キャンパス)
- 11 月 19 日 第 19 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 127 回体育祭厚木畜産学科・動物化学科慰労会 出席
(於 レストランけやき)
- 12 月 10 日 第 19 回厚木キャンパス収穫祭 及び
第 127 回体育祭厚木 慰労会 出席
(於 レストランけやき)
- 平成 31 年度
- 3 月 6 日 畜友会誌「ふじみの」54 号発行
- 3 月 21 日 平成 29 年度 卒業祝賀会・卒業記念品贈呈
(於 厚木キャンパス)

平成 30 年度 畜友会予算
(平成 30 年 6 月 1 日 ~ 平成 31 年 5 月 31 日)

I. 一般会計予算

収入の部 (単位: 円)

科 目	当年度	前年度	差 異	備 考
雑 収 入	0	50	△ 50	
前年度繰越金	1,553,073	4,440,722	△ 2,887,649	①
合 計	1,553,073	4,440,772	△ 2,887,699	

①会費収入がないため

支出の部 (単位: 円)

科 目	当年度	前年度	差 異	備 考
収穫祭特別会計費	383,000	523,000	△ 140,000	①
ふじみの印刷費	300,000	250,000	50,000	②
卒業祝賀会費	0	180,000	△ 180,000	③
卒業記念品費	0	193,000	△ 193,000	④
消耗品費	0	30,000	△ 30,000	①
備 品	0	50,000	△ 50,000	①
畜友会費返還金	15,000	2,152,500	△ 2,137,500	⑤
繰越金(平成31年度活動費)	785,073	0	785,073	⑥
雑 費	10,000	30,000	△ 20,000	
予 備 費	60,000	882,272	△ 822,272	
合 計	1,553,073	4,290,772	△ 2,737,699	

①予算縮小のため

②4年生210名+ふじみの制作関係者20名…計230名

③④畜友会費を返還したため

⑤過年度未返却分7,500×2名

⑥畜友会が存続する来年度まで予算を確保し、次年度繰越金(平成31年度活動費)とする

平成 29 年度 収穫祭特別会計収支決算報告
(平成 29 年 6 月 1 日 ~ 平成 30 年 5 月 31 日)

II. 収穫祭特別会計

収入の部 (単位: 円)

科 目	決 算 額	予 算 額	差 異	備 考
一般会計からの繰入金	523,000	523,000	0	
普通預金利息	0	0	0	
合 計 (C)	523,000	523,000	0	

支出の部 (単位: 円)

科 目	決 算 額	予 算 額	差 異	備 考
統 一 本 部	150,000	160,000	10,000	①
宣 伝 隊	49,917	50,000	83	②
装 飾	4,626	50,000	45,374	③
家 畜 苑	60,033	80,000	19,967	④
体 育 祭	83,856	130,000	46,144	⑤
雑 費	216	3,000	2,784	⑥
予 備 費	0	50,000	50,000	
合 計 (D)	348,648	523,000	174,352	
収支差額: (C)-(D)	174,352	0	△ 174,352	

①団結式の飲物代、料理代等

②厚木パレード衣装代、神輿材料費等

③雑巾、ハサミ、ペン代等

④インパクトドライバー、風船代等

⑤応援合戦衣装代

⑥振込手数料

上記の通り報告する。
平成 30 年 6 月 18 日

畜友会会長 桑山 岳人 ㊟

監査報告書

畜友会会則第9章、29条及び30条の規定に基づいて平成30年6月13日に平成29年度業務及び会計監査を実施しました。

事業報告、通帳、出納帳及び領収書を精査した結果、適切に遂行されたことを認める。

上記に相違ないことを認める。

平成 30 年 6 月 13 日

平成 30 年度畜友会監査委員

原 ひろみ ㊟
織田 聡美 ㊟

黒澤 亮 ㊟
上江洲 安志 ㊟

平成30年度畜友会役員

平成30年6月1日～平成31年5月31日

役職(教員)	氏名	研究室
会長	桑山 岳人	家畜繁殖学研究室
副会長	白砂 孔明	家畜繁殖学研究室
	高橋 幸水	家畜育種学研究室

執行委員	氏名	研究室
委員長	3年 水澤 洸大	家畜飼養学研究室
副会長	3年 谷 洋介	家畜生理学研究室
	2年 中牟田 泰央	未定
庶務	3年 原 水穂	畜産物利用研究室
	2年 下鳥 誠行	未定
会計	3年 島山 良太	家畜生理学研究室
	2年 高橋 慎太郎	未定
企画・渉外	3年 石堂 堇	家畜衛生学研究室
	2年 半谷 亜紗美	未定
編集	3年 池内 美里	家畜飼養学研究室
	2年 大畑 夏帆	未定
監事(教員)	原 ひろみ	家畜生理学研究室
	黒澤 亮	家畜飼養学研究室
監事(学生)	3年 上江洲 安志	家畜生理学研究室
	2年 木原 龍成	未定

※学年は平成31年3月現在

特別会計予算案

(平成30年6月1日～平成31年5月31日)

II. 収穫祭特別会計予算

畜友会援助費

収入の部 (単位:円)				
科目	H30年度	H29年度	差異	備考
一般会計からの繰入金	383,000	523,000	△140,000	①
合計(A)	383,000	523,000	△140,000	

①予算縮小のため

支出の部 (単位:円)				
科目	H30年度	H29年度	差異	備考
統一本部	160,000	160,000	0	
宣伝隊	20,000	50,000	△30,000	①
装飾	20,000	50,000	△30,000	①
家畜苑	30,000	80,000	△50,000	①
体育祭	100,000	130,000	△30,000	①
雑費	3,000	3,000	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合計(B)	383,000	523,000	△140,000	

①予算縮小のため

農友会学科助成金

収入の部 (単位:円)				
科目	農友会厚木支部助成金			備考
	H30年度予算額	H29年度決算額	差異	
畜産学科助成金	1,229,000	1,154,227	74,773	
預金利息	0	0	0	
合計	1,229,000	1,154,227	74,773	

支出の部 (単位:円)

科目	農大厚木支部助成金			
	H30年度予算額	H29年度決算額	差異	備考
1 事務費	1,000	310	690	
2 記録費	0	0	0	
3 公用費	2,000	3,000	△1,000	
4 交通費	21,000	6,500	14,500	
5 神輿代	120,000	122,522	△2,522	①
6 パネル代	149,000	139,853	9,147	
7 応援合戦・衣装代	170,000	154,615	15,385	
8 学内装飾費	352,000	345,928	6,072	
9 収穫祭体験企画費	412,000	379,771	32,229	
鋼管リース代	109,000	80,158	28,842	
運搬代	135,000	129,600	5,400	
装飾代	139,000	147,250	△8,250	②
活動運営費	29,000	22,763	6,237	
10 雑費	2,000	1,728	272	
合計	1,229,000	1,154,227	74,773	

①木材再利用のため

②家畜苑門、家畜説明文パネルを新しくするため

第十九回厚木キャンパス収穫祭・第二二七回体育祭事業報告及び結果報告

〔事業報告〕 統一本部

今年度第一九回収穫祭及び第二二七回体育祭畜産学科・動物化学科統一本部の活動は例年と同じく、収穫祭宣伝活動・神輿作成・研究棟アート・特別ステージ企画・家畜苑・櫓装飾・体育祭演舞を行いました。

統一本部（委員長、副委員長）の活動としては、夏季休暇から各部門活動が本格的に始まり、円滑に進めるべく、先生方をはじめ第一九回収穫祭実行本部・農学科統一本部・バイオセラピー学科統一本部との連携をうまくはかることで成功へと一生懸命に突き進みました。

畜産学科・動物化学科統一本部全体の活動としては、新一年生親睦会、新入生歓迎相模川BBQを開催し、統一本部の魅力を伝えられるように試行錯誤しました。また、例年と同様に定期総会・懇親会・慰労会を行いました。また、昨年雨天中止となった厚木パレードは天候にも恵まれ毎年楽しみにしてくださっている方々へ厚木キャンパス農学部笑顔と熱気を届けられたかと思えます。第二二七回体育祭では畜産学科全体が勝利へと一致団結し、惜しくも総合2位という結果になりました。これも応援してくださった先生方、畜友会を築いてきてくださった先輩方、同輩のおかげです。

来年度は先輩方から引き継いだ伝統とともに、わたしたちの色全開で例年よりもっと上を目指して全員で協力し畜

特別企画

今年の収穫祭でのステージ企画は観客の人に楽しんでもらえる企画をテーマとし、企画を考えました。企画を考へるときに、どういうものがよいのかどう進めていけばよいのか不安が積もっていく中で、先輩方2人に何度も助けて頂き、方向性を見つけることができました。その結果、大きなミスもなくまた大きな衝突もなく、無事にシーズンを終えることができました。

今年は、先生方と総務部の方との会議や音響との打ち合わせといったすべてが初めてのことでわからないことが多かったのですが、先輩や後輩、他学科の方に支えて頂き、最高のステージ企画になりました。観客の方から「楽しかったし、面白い企画だった。」と言われた時の達成感、特別企画部門でしか味わうことのできないものです。シーズンを通じて、あまり関わりがなかった他学科の方と仲良くすることができ、すべてがよい経験となりました。

また、来年度は自分たちが後輩に指示を出します。今年度の至らなかつたことを改善し、先輩方のような素晴らしい企画を作り上げたいです。そして、来年度は今年よりももっと他学科とかかわってお互いが支えあうことの出来る特別企画部門にしていきたいです。今年、ありがとうございました。

産学科の最後に恥じない収穫祭、体育祭を作り上げていきたいと思えます。目指せ！総合優勝！！



宣伝隊

宣伝隊の主な活動は、収穫祭を宣伝することです。そのため様々な場所に赴き、宣伝活動を行ってきました。

具体的な活動は、八月に行われた鮎祭り、ジャズナイトフェスティバルに参加し全学応援団のリーダー公開、農大名物大根踊りを披露してきました。また、それらのイベントにおいて収穫祭に関する事が記載されたうちわを配布して参りました。

九月からは、本厚木駅、小田急線沿線上の駅周辺のお店等にビラやポスターを置かせていただく店回り活動、同じく駅でビラを直接配布する各駅宣伝活動を行いました。

十月二十日には、厚木パレードを行いました。当日は世田谷の各統一本部長の方々にもお越し頂き大変盛り上がりを見せました。夏休みから神輿部門の方々が製作していた各学科の神輿を元氣よく担ぎ、ウインドオーケストラ部の演奏も厚木一番街に響き渡りました。ここでも大根踊りを全員で披露し厚木パレードは大成功に終わりました。

そして迎えた収穫祭当日。野菜配布、抽選会ともに無事に終わりました。抽選会の景品は昨年度同様、農大と連携を結んでいる地域、企業の方々から頂いたものを使用しました。

今年度は昨年度よりも更に来客数が増え宣伝活動の努力が報われたと感じております。今年度、宣伝隊の活動を通じて改善点等が見つかったので来年度はそこをいかに工夫、改善していくか、楽しく宣伝していきたいということ

神輿

今年度の神輿部門の活動内容は、厚木の一番街の練り歩きと厚木キャンパス新学生会館前での展示をし、学科対抗の神輿の一般投票、キャンパス内の練り歩きを行いました。

去年は雨の為できなかった一番街での厚木パレードを今年度は行うことができ、沢山の方々に見て頂き、収穫祭を宣伝することができました。

今年度は、八月から活動を開始し、三年生三人、未経験の二年生三人と去年より多い人数で約三か月間の活動を通して今年はかなりいいペースで完成させることができました。伝統的な畜産学科の神輿を今年も受け継ぎ、メインの堂には四神の朱雀、青龍、玄武を墨で描き正面には畜産学科の牛のマークをつけました。堂は、それぞれ立体的にまわりを掘り文字には金貼りを行いました。堂の上には、花鳥風月をモチーフに彫り物を施し、一年生の色塗りのセンスですごくきれいで神輿の雰囲気と和らげました。先輩の案で紐を今年はいそに鈴をつけより神輿らしさを演出し、今年は人気投票でなんと優秀賞を頂くことができました。

来年度は、もつといろいろなことに挑戦し、畜産学科の自分たちらしい神輿を制作し、来年度も優秀賞をとります。

を念頭に置き、活動していきたいと考えております。



体育祭

今年度の体育祭部門は、「獣魂祭」をテーマに演舞構成、衣装制作を行いました。「獣魂祭」とは、研究のために犠牲になった動物たちの冥福を祈り、命の尊さを再確認するお祭りです。研究や授業で動物に触れ合う機会が多い畜産学科だからこそ表現できる演舞だったのでないかと思えます。また、衣装も演舞に合わせてゆったりとした動きをしたときにきれいに見える形にし、素材も外の光に当たるととてもきれいに見えるものにこだわりました。

体育館で行われる日々の練習は、最後に動画を撮り何度も何度も確認と修正をする毎日でした。世田谷で行われたグラウンド練習では昨年、タイムオーバーをしてしまったという苦い経験をもとに足がプルプル震えるまで入場と退場のダッシュの練習をしました。そのおかげもあり本番では終わった後に自然と涙が流れるほど達成感のある演舞を踊ることができました。演舞の順位は9位と悔しい結果にはなったものの、みんなで同じ目標に向かって全力で練習したこの2か月はとても濃い時間になりました。

来年度、畜産学科統一本部は最後の年になります。農学科の連勝をストップさせ、畜産学科統一本部の締めくくり、そして動物科学科統一本部の幕開けにふさわしい総合優勝を櫓と共に必ず勝ち取らなければいけないと思っています。畜産学科の先生方、生徒の皆さん。私たちはやるべきはやるので見ていてください。来年度も応援、また当日のご協力よろしく願います。

櫓

櫓部門では毎年、大きなパネルにそれぞれの学科を象徴した絵を描き、世田谷キャンパスで行われる体育祭で展示します。その際に全学科で順位付けがされるため、入賞できるように頑張ってきました。

今年度の櫓部門は、三年生三人、二年生二人の合計五人で活動を行い、夏休みの初めから体育祭当日までの約三ヶ月間、全員で作業に奮闘しました。今年度の櫓のデザインは昨年度とは一味違い、畜産学科らしい牛をメインにした力強い作品になりました。月、山、花、炎を牛の周りに描き、背景は和紙をイメージしたカラーでグラデーションを施したことによって、まるで浮世絵のような仕上がりになりました。畜産学科のかっこよさや迫力を最大限に表現出来たと思います。

今年は夏休みから作業を始めたこともあり、下書きや着色、ニス塗りなど、ほとんどの作業が順調に進みました。全ての絵が完成し、世田谷キャンパスでの設置も終わり、自分達が作り上げた櫓を見たときの感動と達成感は忘れられません。そして、準優勝という素晴らしい賞を頂くことができ、本当に嬉しかったです。

来年度は先輩達が引退してしまい不安なこともたくさんありますが、先輩達から教わったことを生かし、新しい後輩と共に素晴らしい作品を作り上げたいと思っています。来年こそ優勝できるように全力で頑張ります。



研究棟アート

装飾部門では毎年、収穫祭の研究棟アートとして大きな垂れ幕を作り、学内装飾を行なっています。今年度湘北短大側には、三年生がデザインした、農産物が街全体を流通する様子と、農学に関わる様々なものをポップな絵柄で表現した二枚の垂れ幕を、けやき食堂側には二年生がデザインした、制服を着た農大応援団が大根踊りをする様子の垂れ幕を飾らしていただきました。

装飾部門の活動は、六月の布選びから始まり、夏休みの開始と同時にミシンを使つての作業に入ります。まずは大きい布と大きい布を繋ぐための耳づくり。たくさん布をしっかりと繋げるために、何日もかけて数百の耳を作ります。九月に入ると体育館に布を全て広げて下書きが始まります。A4サイズだった原稿を何十メートルもの布に書き写すのは至難の業でした。九月下旬、長い時間をかけて下準備をしてきた布にペンキで色を塗ります。一枚一枚塗り仕上げていくので、布にロープを通し、耳を結び全ての布を繋ぎ合わせ、研究棟から垂らすまでは、垂れ幕がどう見えるのか分かりませんでした。

十月三十一日、ついに研究棟の屋上から布が下され完成しました。完成した様子を遠くから見確認した時に感じた、達成感の後の喪失感は今でも忘れられません。

来年度もまた、より素晴らしい作品を完成させますので、収穫祭に足を運ばれた際には、皆さま是非研究棟を色々な角度から見上げてみてください。

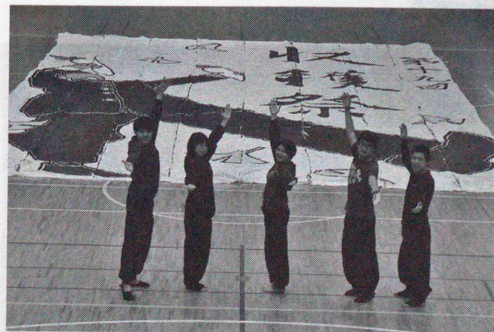
家畜苑

今年の家畜苑は、三年生二人、二年生四人の合計六人でシーズンを通し活動してきました。人数が少ないこともあり他の部門や一年生の力を借り作業を進めました。そのおかげで何とか無事に収穫祭を終えることが出来ました。

家畜苑の作業内容は、第二講義棟下の広場に設置する家畜苑門、撮影用パネル、ベンチや牛の置物やコーンの装飾、展示する家畜の説明パネルと背景パネル、案内看板を作成し、収穫祭の直前には家畜を展示する際の小屋を作成しました。また、収穫祭当日には、牛のブラッシング体験、ひよこのふれあい体験、バター作りを来客の方に体験していただきました。○×クイズも行い、たくさんの方に参加していただきました。他にも例年通り、特別企画部門と合同企画として家畜苑の会場内でのミニバルーン教室を両日二時間ずつ行いました。こちらも多くのお子さんにミニバルーンを作っていただきました。

去年の反省を活かし、今年には計画的に作業を進めよう思いました。

しかし、なかなか全員揃って活動できる日が少なく、夏休み中は作業が進みませんでした。夏休みが終わってもなかなか全員が揃って活動できる日が少なく時間だけが過ぎていきました。日が経つにつれ収穫祭当日も近くなつていき流石に皆も危機感が芽生え始め十月後半からは学校が終わった後、パチンコ屋に行く時のようなスピードで作業場に向かい、必死こいてありとあらゆる知識を振り絞って作業を進め、なんとか収穫祭に間に合うことができました。



本場にいろいろな人の協力があつての家畜苑の成功だと身に染みて感じています。ありがとうございました。
来年度こそは、今年の反省を活かしてたくさんの方に頼り頼りながら皆で協力し最後の畜産学科統一本部のシーズンをパチパチに楽しみたいと思います。

【結果発表】

体育祭

総合順位	2位
競技の部	2位
応援合戦の部	9位
樽装飾	2位

東京農業大学農学部畜産学科畜友会 「畜友会」会則

第一章 総則

- 第一条 本会は東京農業大学農学部畜産学科畜友会と称する。
- 第二条 本会は事務局を東京農業大学農学部畜産学科内に置く。
- 第三条 本会は会員相互の親睦を図り、併せて畜産学科の発展に寄与することを目的とする。

第二章 業務

- 第四条 本会は第三条の目的達成のために次の事業を行う。
- (1) 会員相互の親睦
 - (2) 講習会、研修会及び研究会発表の開催
 - (3) 機関紙「ふじみの」の発刊
 - (4) 大学行事（収穫祭等）への参加
 - (5) その他第二条に付帯する業務

第三章 会員及び役員

- 第五条 本会の会員は次の通りとする。
- (1) 正会員 畜産学科の学生
 - (2) 特別会員 畜産学科教職員ならびに大学院生

第六条

(3) 名誉会員 役員会の推薦を受け、総会の承認を得た者。

(1) 会長 1名

(2) 副会長 2名

(3) 執行委員

委員長 1名

副委員長 2名

庶務 2名

会計 2名

企画・渉外 2名

編集 2名

監事 4名

第七条

(1) 会長は会を代表し、会務を総理する。

副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理とする。また1名は総務を他の1名は会計を分担する。

(2) 委員長は会長の指示を受け、執行委員会を統括する。

副委員長は委員長を補佐し、委員長不在の時はその代理をする。各委員長はそれぞれの会務を分担執行する。

第八条

(1) 本会には、連絡委員を各学年に置き、執行委員会の決定事項を会員に伝達する。

第九条

役員および連絡委員の選出および任期

(1) 会長は畜産学科長がこの任にあたる。副会

長および監事は、会長が畜産学科教職員の
中から推薦し、総会において決定する。

(2) 執行委員および連絡委員は、総会において
決定する。その任期は原則として1年とし、
再任を妨げない。

第十三条

定期総会は次の事項を決議する。

1. 前年度の事業報告および収支決算報告

2. 次年度の役員

3. 次年度の事業計画および収支予算

4. 会則の改正

その他

第十四条

総会における議長は総会においてその都度互
選する。尚、必要に応じて議長は副議長を指
名することができる。

第十五条

議長は書記2名と議事録署名人2名を選出す
る。尚、議事録署名人の内1名は畜産学科教
職員とする。

第十六条

総会の議決は出席者の過半数によって議決さ
れ、可否同数の場合は議長の決するところに
よる。

第十七条

総会出席者により執行委員の不信任を可決す
ることができる。但し、この場合の出席者に
は委任状は含まない。

第十一条 総会開催は七日以前に公示しなければなら
ない。

第十二条 (1) 総会は正会員および特別会員の4分の1以
上の出席により成立する。

(2) 委任状は所定の用紙に署名捺印のうえ議長
に一任する。委任状は総会の定足数に含ま
れるが、正会員および特別会員の5分の1
を上限とする。

(3) 委任状の検査は執行委員が行う。

第五章 執行委員会および連絡委員会

第十八条

(1) 第六条(3)の執行委員会は本会の最高執行機
関たる執行委員会を構成する。

(2) 会長および副会長は必要に応じて執行委員
会に出席することが出来る。

第十九条

執行委員会は原則として月一回委員長が招集
する。執行委員会は執行委員の3分の2以上

により成立する。執行委員会の議長は委員長が勤め、出席者の過半数より可決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

第二十條

執行委員会は総会の議決に基づき、本会の目的遂行に関する一切の会務を執行処理する。

第二十一條

執行委員会で議決された事項について、委員長は会長および副会長に文章で必ず報告する。

第二十二條

連絡委員会は委員長が総会前に必ず招集開催する。また、委員長が必要を認めた場合に開催することができる。

(1) 連絡委員会には執行委員および連絡委員が出席する。議長は委員長が務める。

(2) 連絡委員会は次の事項を処理する。

1. 執行委員会で決定した事項の伝達。

2. 一、二年次および各研究室からの意見の聴集および意見交換。

(3) 連絡委員会には必要に応じて会長、副会長も出席することが出来る。

第二十三條

本会の事業年度および会計年度は6月1日に始まり、翌年の5月末日までとする。

第六章 会計

第二十四條

本会の運営は繰越金を以ってこれにあてる。

第二十五條

(1) 会費は平成29年度より徴収しない。

第二十六條

本会の会計は、所定の形式に従って処理し、

決算はすべて監事の監査を経なければならない。

第七章 機関紙「ふじみの」編集発行

第二十七條

(1) 第四条(3)の目的達成の為に編集委員会を設ける。

(2) 編集委員会の委員は執行委員および正委員の中から若干名選出する。

(3) 編集委員会の責任者は編集委員のうち1名が担当する。

(4) 編集委員会は機関紙「ふじみの」の編集発行を責任もって執行する。

第八章 大学行事への参加

第二十八條

(1) 第四条(4)の目的達成の為に必要に応じて委員会を設ける。

(2) 設けた委員会は本会の目的達成の為に執行委員会の意思を受け運営する。尚、内規は別に定める。

(3) 委員会の責任者は執行委員の内1名が必ず当たる。構成員については、正会員の中から必要に応じた人数を選出する。

第九章 監査

第二十九條

監事は本会が目的達成の為、円滑に業務を執行しているか否かを監査する。

第三十條

監事は前条目的の為業務監査および会計監査を行い、その結果を総会において報告する。尚、必要と認めた場合は臨時監査することができる。

第十章 付則

第三十一條

本規定の最終解釈は役員会で行う。

第三十二條

本会は平成31年度定期総会において平成31年度の各種活動報告の承認をもつて解散とする。また、残金があった場合はその総額を平成31年度定期総会終了後に東京農業大学農学部厚木キャンパス農友会に寄付するものとする。

第三十三條

本会則は、昭和35年6月29日に制定された東京農業大学畜産学科「畜友会」規約を平成10年7月7日に一部改正し、それを元に平成10年2月20日に新たに東京農業大学農学部畜産学科「畜友会」会則を制定した。その後、平成23年6月23日、平成29年6月29日に順次会則の一部を改正し、これを施行する。

畜友会収穫祭内規

第一章 目的

第一条 本内規は東京農業大学農学部畜産学科畜友会会則（以後畜友会会則と称す）第28条によりこれを定める。

第二条 収穫祭は東京農業大学農学部厚木支部収穫祭規定第1条及び第9条に基づき収穫祭に参加する。

第二章 組織および役員

第三条 収穫祭を円滑に運営するため畜産学科収穫祭実行委員会（以後実行委員会と称す）として次の組織を置く（以後6本部と称す）。

1. 統一本部
2. 宣伝隊実行本部
3. 特別企画実行本部
4. 学内装飾実行本部
5. 家畜苑実行本部
6. 体育祭実行本部

第四条 実行委員会に次の役員を置き、会務を処理する。

- 統一本部顧問 若干名
- 統一本部委員長 1名
- 統一本部副委員長 1名
- 統一本部会計 1名

各実行本部顧問 若干名
各実行本部委員長 各1名
各実行本部会計 各1名

第五条 (1)統一本部顧問および各実行本部顧問は畜産学科教職員より畜友会会長がこれを委嘱する。

(2)統一本部委員長は畜友会執行委員、統一本部副委員長、統一本部会計、各実行本部委員長および各実行本部会計は統一本部委員長が畜友会執行委員会の承認を得た後、畜友会会長の了承を得てから委嘱する。

(3)統一本部および各実行本部の担当者は正会員の中から募集し、統一本部委員長がこれを委嘱する。

第六条

(1)統一本部顧問および各実行本部顧問は統一本部および各実行本部の指導にあたる。

(2)統一本部委員長は各実行本部を統括する。統一本部副委員長は統一本部委員長を補佐すると共に統一本部担当者として各本部の円滑な運営活動を助ける。

(3)各実行本部委員長は各実行本部の運営を担当する。

第七条

実行委員会の機関として6本部会議および各実行本部会議を置く。

(1)6本部会議は、各実行本部顧問、統一本部委員長、統一本部副委員長および統一本部

会計ならびに各実行本部委員長、で構成し、畜産学科収穫祭全体の重要事項を審議する。6本部会議の議長は統一本部委員長がこれを務める。

(2)各実行本部会議は統一本部委員長、統一本部副委員長、各実行本部委員長および各実行本部担当者で構成し、各実行本部の運営活動を審議する。各実行本部会議の議長は各実行本部委員長がこれを務める。

第三章 会計

第八条 収穫祭の会計は特別会計として畜友会収穫祭援助費および農友会厚木支部収穫祭助成金ならびにその他の収入をもってこれにあてる。

第九条 予算は畜友会執行委員会で編成し、畜友会定期総会で承認を得る。

第十条 会計処理は別に定める。「会計処理取扱細則」によって処理する。

第十一条 決算書は統一本部がこれを作成し、畜友会執行委員会に諮り、畜友会監査を受けた後、畜友会定期総会で承認を得る。

第四章 付則

第十二条 本内規の改正は6本部会議で原案を作成し、畜友会執行委員会で承認を得る。

第十三条 本内規は平成15年6月1日よりこれを実施す

る。
本内規は前内規を一部改正し、平成23年6月23日よりこれを施行する。

チカラ

統一本部委員長

3年 水澤 洸大

気が付けば大学生活も3年が経ち、この時間は本当にあつという間の出来事でした。畜産学科統一本部に興味を持ったのは、私の一つ上の先輩が活動に参加されていて、熱く活動について語ってくださったことがきっかけです。初めて活動に携わって思ったことが、一つの団体にこんなにも熱く、一生懸命になることができるなんて、考えられませんでした。1年生の活動を終えた時に、前年度統一委員長の関和真さんから「副統一委員長をやってみないか？」と声をかけて頂きました。自分が前に立つて引張っていいのか、そんなチカラはあるのか、と不安でしかなかったです。しかし、和真さんから「洸大ならできるよ！洸大に任せたい。」と言われ、ふと私の恩師から言われた「団体の活動でつべんをやりなさい。仕事でも趣味でもいい。そのてつべんに立つてみなさい。」という言葉を思い出して、これはチャンスだ、やるしかないと思いました。副統を1年やってみて、自分は和真さんみたいことができるのだろうかと考えようになりました。しかし、そんな不安をぶつ飛ばしてくれたのが私の代、一つ下、二つ下の後輩たちでした。チカラ強く支えてくれ、一人一人の個性がとても強かったからこそ不安が自信に変わり、確信に変わりました。これはイ

第69代目統一本部は、新しい形で取り組みながらも先輩から引き継いだことを大切にしました。多くの寄り道をしましたが、収穫祭本番は大盛況のうちに無事に幕を閉じることができました。そして、神輿は3学科で最優秀賞・NCN第1位を勝ち取ることができ、収穫祭は畜産学科統一本部が1番の盛り上がりを見せたといつても過言ではありません。体育祭は昨年の雪辱を果たすため、より一層の気合を入れて挑みました。競技2位・応援合戦9位・櫓2位・総合2位という素

みんなのおかげで。

特別企画部門委員長

3年 谷 洋介

今年度畜産学科統一本部特別企画部門委員長を務めさせていただきました。畜産学科三年谷 洋介です。

今年、委員長を務めさせてもらい、去年の二年の時に先輩の世話になってばかりの時に比べ後輩の面倒を見なければならぬとともに、僕の委員長としての立場も考えなければいけません。しかし二年橋本論 松宮桃香はとてもいい後輩たちで逆に僕を助けてくれました。橋本論はとても元気がよくうるさくてお調子者で、なのにちよつとナイーブなやつでした。彼とは長い時間冗談ばかり言ったり、ふざけあつたりしました。そのせいで作業がはかどらず何度も怒られ、ちよつとやつてはまたふざけあつたり繰り返してしまいました。でも彼が居なかったら僕は長いシーズンを乗り越えられなかったと思います。僕にとつて橋本論という人間は大きな存在でした。論、ありがとう。松宮桃香は普段無口でおとなしい性格ですが、話を振った時やふざけている時はいつも笑っていてくれました。彼女は二年にして、委員長の僕よりも段取りがよくいつも冷静に物事を進めてくれました。彼女には今年から委員長として頑張ってもらいますが、もちろんなら大丈夫。頑張ってください。そしてこんな僕と一緒に二年間頑張ってくれた原水穂は時には厳しく、時には厳しくでした。でも僕は感謝しています。尻でも叩かないとやらない僕に叩いてくれたのは原ちゃんでした。彼女のおかげで無事企画を進めることが出来、無事成功にまで終わらせる事が出来ました。原ちゃん本当にお疲れ様。そして、本当にありがとう。

晴らしい結果でした。応援合戦が終わった後のみんなの笑顔、泣き顔を今でもはっきりと覚えています。やりきった。本当に楽しかった。けど、1位の壁は届きそうで届かない大きな壁だった。この壁は、後輩に超えていって欲しい大きな目標となったと言つても過言ではありません。来年こそ畜産学科が東京農業大学で一番ということをお祈りしてあげたい。頼んだぞ。統一委員長をやりたい、このふじみのを書いておくと楽しかった日々がさつきまでのことのように感じ、寂しさを感じます。ここまで全力でやることのできたのは先生方、総務部、三学科統一本部、OB・OG、全学応援団、研究室の皆様のおかげであつたからこそだと思います。何より、畜産学科統一本部のみんなのチカラがあつてのこと。宣伝隊、神輿、特別企画、家畜苑、装飾、櫓、体育祭の一人一人が、いいものを作ろうと頑張つてくれたのを私は知っています。みんなの長として頼りない部分はたくさんあつたけど信頼してついてきてくれてありがとう。来年は畜産学科として70代目という節目を迎えます。けど、変わらずに楽しく、畜産学科らしく全開で突っ走ってほしいです。

さて、私の後を継ぐ70代目統一委員長を務めますのは「中卒田 泰央」です。時々抜けていることやいきなりよくわからない発言や髪形をする彼ですが、私よりも的確な指示を周りに伝えることができ、頭の回転が速いです。とにかく私よりも仕事ができます。私がやらなすぎるので煽られたりもしました。そんな泰央に伝えたいことは、泰央の代はチカラ強い奴らがたくさんいる。そんなみんなのチカラを殺すも生かすも泰央次第だよ。みんなが困つていたら相談に乗つたり、アドバイスしてみたり積極的にコミニケーションをとることが委員長の大切なお仕事です。そして自分が困つたら逆にみんなに相談するんだよ。今まで俺の色だった畜友会が泰央の色になったらどんな色なのか楽しみで仕方ないよ。泰央と統一と一緒に仕事ができると楽しかったよ。一緒にの思い出作つてくれてありがとう。

私が統一委員長だったこの1年間、一片の悔いはありません。中身の濃い、いや、濃すぎた日々を本当にありがとう。最後になりますが、桑山学科長を始めとする諸先生方におかれましては多大なるご尽力を頂きましたこと、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

畜産学科、動物科学科の益々のご発展とご多幸を切に祈つて今年度畜産学科統一本部統一委員長水澤洸大の言葉と代えさせていただきます。これにて終演。ありがとうございました。

そんなこんなで今年特別企画部門としてやってきた仲間たちは今こうして振りかえつてみるとほんと僕が面倒を見てもらったぐらいです。みんなが居てくれたから、一緒に頑張つてくれたから、乗り越えてきたから今年特別企画部門として良いものができ、成功に収めることができました。そして裏で支えてくれた先輩達。ありがとうございました。無事終わり遂に僕たちも後輩に託す事ができました。先輩たちの教え受け継ぐことができました。ありがとうございました。

そして最後に、三年のみんな。あなた達が居ないと僕はなにもできませんでした。今年の三年はみんないいやつで、おもしろくて、仲が良かったとおもいます。収穫祭や体育祭でもみんな協力してできたこと、みんなしんどい時に話し合つたり励ましあつたりしたこと。こんなにいっぱい泣いて、いっぱい笑っているのを見たのは初めてかもしれません。みんなありがとう。最高。そして統一委員長の水澤洸大。君が誘つてくれなかったら味わえなかったことばかりでした。69代畜友会はおまえのものや。感謝を忘れずに。ありがとう。

いろいろありましたがみんなのおかげで終わりました最高の瞬間をありがとうございました。感謝、感激、感無量。

最後になりますが、原先生をはじめとする諸先生方、総務部、他学科のみなさん、企画の参加者においては多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

宣伝隊を終えて

宣伝隊長

3年 松井 優美

先畜産学科統一本部として、そして宣伝隊部門としての活動が
完了しました。

2年生から統一本部に入り、宣伝隊の活動についても畜産学科
や他学科のメンバーのことも知らないスタート。他学科のように
1年生の頃からお手伝いをしていなかったため最初の集まりでは
不安でいっぱい。これからやっていけるのかと心配な日々が続い
ていたことを思い出します。

今年度はどの部門よりも早い4月から、収穫祭に向けた毎週の
会議と大根踊りの練習を開始しました。そして夏休みから10月
までは小田急線各駅でビラやポスターを配る各駅宣伝や店回り活
動、本祭の抽選会で協賛をしていたいただいた福島県矢吹町でお礼
として大根踊り披露、神輿を担ぎながら厚木一番街で練り歩く厚木
パレードなどさまざまな活動をしてきました。

収穫祭当日はメイスイイベントである野菜配布・抽選会を行い、
昨年度の反省を踏まえクレームが起こることなく無事に終了しま
した。

宣伝隊の活動が恵まれたのか3千人ほど来場者が増加し、とて
嬉しく思います。

このように締めくくることができたのも、日頃から宣伝隊の活
動にご理解ご協力いただき支えて下さった参与や学科の先生方、
OB・OGの先輩方、学科統一のみんな、たくさんの応援をくれ
る地域の方々、大好きな宣伝隊の仲間がいてくれたからこそだと
思っています。本当に感謝しています。

最強の神輿と最高の仲間達

神輿隊長

3年 横田 千里

1年前に自分が神輿の隊長に指名されてから、不安でいっぱい
だった。2年生の頃は体調不良などで先輩や同輩に迷惑をかけて
ばかりだった自分が隊長を務めて大丈夫なのかと思っていた。
しかし、そんな不安は今年の収穫祭準備がはじまってすぐになく
なった。それは自分のことを支えてくれた同じ3年生と自分の
ことを信じてついてきてくれた後輩である2年生のおかげだから
だ。この5人には感謝してもしきれない。

今年は夏休みから少しずつゆとりを持って作業をはじめ、ストレス
のないシーズンを過ごすことができた。そのおかげもあって今年は全然
体調を崩さなかった。これも、みんなの協力があってからである。

去年は雨天のためできなかった厚木パレードは快晴の中やること
ができた。はじめて神輿の上に乗ってみんなに担がれた、最高の気分だった
(笑)。自分達が作った神輿をみんなで担ぎ、宣伝隊が声を出しなが
ら先導するこの瞬間が自分は一番好きだ。畜産部のみんなが1つになっ
ているからだ。厚木パレードは大成功に終わった。

そして収穫祭当日、学生会館前に3学科それぞれの神輿を展示し
て3学科の神輿の中から一番を決める神輿投票は今年も開催された。
やるからには一番を取るしかないと言った。今年の畜産の神輿の一番の
見所は屋根から担ぎ棒までに巻いた存在感溢れる紐とその紐に括り付
けられている大きな金色の鈴。展示されていた中でも畜産の神輿が1
番目立っていた。4年生の先輩や卒業した先輩達から褒めていただき、
「般のお客さんの反応もすごくよくてうれしかった。

待ちに待った学校内で行う練り歩き、サークルや研究室や自分
の部門の仕事で忙しい中みんな来てくれた。

来年度学科隊長を務めるりゅうきは、私と同様2年生から活動
をはじめましたが活動に対しても積極的で、人懐こく弟のよ
うな存在です。宣伝隊副隊長を務めたいきを支え畜産学科を
引っ張っていつてくれると思います。

だいきは的確な発言力や行動力、時には厳しく時に面白くみん
なをまとめられる能力をもっています。今後の宣伝隊は彼がいる
ので心配はしていません。

誰に対しても気を配れるしげるは、私も毎回助けられていまし
た。自分の仕事に責任を感じながらやっている姿、素敵です。

1年生の時からお手伝いしてくれたみつき。お手伝いに来てく
れた1年生を優しく迎えてすぐに仲良くなっていて凄いなと思
いました。その優しさをこれからも大切にしてください。

2年間お世話になったりゅうさん。いつも楽しませてく
れて、辛い時もお互い声をかけあって頑張ってきたね。りゅうた
ろうさんが宣伝隊で本当に良かったです。

そして農とセラの宣伝隊のみんな、先輩方にも本当にお世話に
なりました。みんながいたから私はこの2年間辛くても続けてい
けました。宣伝隊で得た経験を活かしてこれからも頑張ります。
今後の宣伝隊の応援も宜しくお願いします。

2日目は雨が降っていて、練り歩きができるかわからなかった
が、3学科の神輿部門の熱意が伝わったおかげか時間になったら
雨が止み、無事に練り歩きをすることができた両日ともに大盛り
上がりを見せた。

周りにいた学生や一般のお客さんも一緒に盛り上がりたしてくれ
うれしかった。神輿の活動はこれだけ最後になるのかと考えたら泣
きそうになった。

閉会式での結果発表、神輿投票で畜産の神輿は優秀賞をとること
ができた。有言実行、3学科の中で一番になれた。一番になれたの
は一緒に神輿を作った5人をはじめ、練り歩きの時の声出しなど、
いろいろなサポートしてくれた宣伝隊、担いでくれた他の部門
のみんなのおかげだ。これは畜産の全員でとった優秀賞だと自分
は思っている。ステージに立ち、表彰状を受け取ったとき、畜産
学科統一本部に入って、神輿部門に入って、隊長になってよかつ
たと心の底から思った。そのときはうれしすぎて頭が真っ白にな
って、表彰状の受け取り方を少し間違えたのは唯一の心残りだ。

最後の日、後輩達が大好きな先輩達と神輿部門として活動がで
きて本当によかったと言ってくれた。自分達の事を信じてついて
きてくれた後輩達に泣きながらそんなことを言われるのは先輩と
して一番幸せなことだと思う。神輿部門は本当に後輩に恵まれた
部門で、そんな後輩達が自分も大好きだ。

そしてこんな頼りがいのない隊長を最後まで支えてくれた安志
と生田には感謝してもしきれない、この2人がいたから自分は胸
を張って隊長として活動することができた。

次の隊長には2年の池田聖を選んだ。聖は神輿への情熱や気合
が溢れていて、強気だがやさしさもあり、仲間思いで、盛り上げ
上手で、周りの事をよく見ていて、先輩への礼儀は絶対に忘れな
いすごいやつだ。聖が率いる70代目畜産学科統一本部の神輿がこ
れからとても楽しみだ。安志、生田、聖、慎太郎、麗名、俺達の
神輿は最強で、俺達6人は最高だ。この6人で神輿部門の活動が
できて本当によかった。ありがとう。

第129回体育祭

体育祭委員長

3年 比嘉

楓

今年の体育祭部門は、ここ数年で一番心配されるのではないかと思われるようなメンバーでのスタートでした。というのも、三年生二人が畜友会に元々入るつもりのない一人だったからです。統一本部というのがどういう場所か何をする場所なのかはつきりわからないまま入ることになり、いつの間にか体育祭部門という場所に割り当てられてあつたという間に最初のシーズンを終えました。自分はどうと、そこからなぜか委員長という役職に就き、後輩ができ、よくわからないまま二度目のシーズンが始まりました。やはりというべきか、最初に悩んだのは演舞のテーマを決めることでした。畜産らしいとは何なのか、自分にできる表現とは何なのか。悩んだ末に決まったのは「獣魂祭」というテーマでした。表現するのはとても難しかったし、それを皆に伝えるのはもっと難しかったです。こんな自分なかがみんなを引っ張って体育祭に挑んで答えを導き出してくれる同輩がいて、自分よりもずっと優秀な後輩がいて、演舞練習に来てくれる畜友の皆がいて、自分の中にあつた不安なんてあつたという間になくなるようになってしまいう様最高仲間たちがいました。体育祭本番では、みんな収穫祭の後で疲れていただろうけど、応援や競技にもすごく力を入れて頑張ってくれました。応援合戦での演舞も、今まで一番の、最高のパフォーマンスだったと言いつけるものでした。そのおかげもあり、畜産学科は体育祭総合2位という功績を収めることができました。これは、畜友の皆と、畜産学科の生徒、先生方皆さんの

協力があつてこそだと、心から思っています。本当にありがとうございました。畜産学科としての体育祭は来年で最後となってしまいますが、最高の後輩達が主導となり体育祭を引っ張っていくことになるので、最後まで私たち畜産学科の応援のほどよろしくお願いします！

さて、今年度の体育祭委員長を務めることになった私は、やることなすこと適当だし、練習の進行もちゃんとできなかったし、人前での挨拶もろくにできない不來な体育祭委員長でしたが、最後まで一緒に体育祭をやり遂げてくれてありがとうございました。畜友の皆と一緒にあつたからこそできた事だとも思っています。それから、じろちゃん。私が悩んでいるときは一緒に悩んで色々な意見をだしてくれているし、作業部屋では色々な話をして場を盛り上げたり、雰囲気良くしてくれて、作業のしやすい環境を作ってくれたことすごく感謝しています。じろちゃんの支えがあつたから委員長としての仕事ができました。本当にありがとう。りようすけは、すごく気が利くし、作業も丁寧でしつかり意見も言うことができる頼りになる後輩です。私たちの適当な絡みにも反応してくれてすごく楽しかったです。その優しさで、来年もみんなを支えてあげてください。かほは、すごく真面目でしつかりして、私の適当な提案も現実的に考え直してくれる優秀な後輩です。周りの意見を聞くのが上手くて、いつも元氣よく作業部屋に入ってくるかほが私は大好きです。来年は委員長として皆を引っ張っていくことになって大変だと思うけど、りようすけと後輩とみんな助け合つて体育祭に挑んでください。楽しみにしています。もし、何か困つたことがあればいつでも私たちを頼ってくださいね。

改めて、協力してください。畜産学科一般生徒、先生方、OB・OGの皆さんに深く感謝申し上げます。来年度もぜひ畜産学科の協力・応援のほどよろしく願います！

ダメダメ委員長と愉快的仲間たち

樽裝飾委員長

3年 竹澤

瑠璃

今年の体育館下は笑い声で溢れていた。私たちは他の部門とは少し離れた少し暗い場所で活動している。雨風を凌ぐ壁もなく地面は土でデコボコだ。虫も容赦なく飛んでくるし鳥の糞が板に落ちていいる事ははや日常茶飯だ。そんなお世辞にも快適とはいえない場所での唯一の救いが、メンバーの明るさだった。ユーモアのある人ばかりで皆よく笑っていた。

私は約3ヶ月間、そんな樽の「委員長」を務めさせてもらった。絵が得意なわけでもなく、リーダーシップがはずば抜けて凄いわけでもなく、ましてや計画性のない私で大丈夫なのか不安で一杯だった。それ故に活動計画を立てる際には途中で何があつても焦らないようにと日数を余分に見積もり、例年よりも相当早く終わるように組んだ。これで心と時間に余裕を持って作業できる！そう確信していた。

しかし人生はなかなか思い通りにはいかないものだ。畜産学科らしくてなるべく万人受けし、メンバー一人一人の担当場所を設け、難し過ぎずに負担なく描ける事に加えて、畜産らしい塗り方を残して自分の描きたい作品を考案するのはそう簡単な事ではなかった。出だしからつまづいてしまったのだ。だんだん予定がずれていく。その焦りと自分のせいで皆に迷惑をかけたくないという気持ちから一人で作業することが多くなつていった。ただ一人やるには限界があつた。そんな私を見かねてか、手をさしのべてくれたのは他でもない畜友の仲間たちだった。「自分もやりたし」と一緒に進めてくれたり、相談に乗ってくれる人たちのおか

げで、変に遠慮することをやめてメンバーを信じて全員で一緒に再び活動した。それからというものはあつたという間だった。気がつけば体育祭当日で、気づけば私の畜友生活は終わっていた。結果は準優勝だった。惜しくも優勝は逃してしまつたが、たえお世辞であつても仲間や先生方が畜産を褒めて下さつたので私はとても満足だったし想像を遙かに上回る順位で正直驚いた。こうして無事に終えることができたのは色んな人たちの助けがあつたからこそだと思ふ。今シーズン関わつたすべての人たちに感謝を伝えたい。

見た目はちょっと強面だが中身はとっても優しく情に厚い男子。自分の意思をしつかり持った芯が強く優しく溢れる女子。そんな最高の仲間がいたからこそ最後まで楽しくやりきることが出来た。礼儀正しくて、自ら進んで力を貸してくれる後輩がいたからこそ安心して活動することが出来た。困つたときに助け船を出してくれる他学科樽部門がいたからこそ切磋琢磨してよりよい樽を作ることが出来た。

シーズン中は何度も挫折しそうになった。何度も諦めたくなつた。しかしメンバーの明るさに何度救われただろう。暗い気持ちも皆が笑つていると晴れていった。どんなことも笑いに変えて楽しい雰囲気を作り出してくれるあやと唯一の頼りになる男子、しかし繊細な絵心を持ち合わせるこみ。茶目っ気一杯だがきちんとするとこはしつかりこなすあちや、細かな事まで気を配りコッポツと着実に事を進めることが出来るあいちやん。きつと頼りない委員長だったけど最後までありがとう。このメンバーだったからこそ樽で良かったと思うことが出来た。

みんな本当にありがとう。来年度は畜産学科としては最後になる年だ。2年生2人、仲良く楽しく、今年度で一番最高の樽を作ってくれることを期待してやるよ！目指せ優勝!!!

おーすごつちゃんです！

裝飾部門委員長

3年 石 堂

堇

1年生から続けていた畜友會での作業に暮を閉じ、早くも1か月が経ちました。あつという間の3年間。私は裝飾部門に入つて本当に良かったと思つています。ふじみのは毎年、委員長と次期委員長がその年の活動を振り返つて心をこめて書くもの。昨年のはふじみの華子さんの文章を読んで先輩がいなくなる寂しさで不安で涙を流したあの日から、収穫祭を終えて達成感と開放感から涙を流したつい先月まで。今年度の裝飾部門の活動を振り返つてみます。

相変わらず活動開始の早い裝飾部門。今年は5月末から余つた布で耳つくり。6月にはみんなで日暮里のトマトに布を買に行きました。そこまではみんな初めての裝飾部門の活動に生き生き！しかし夏休みに入ると、朝からミシン、ミシン、ミシン……。日が経つにつれみんなの顔が疲れていきました。ミシンを特に頑張つてくれたのはみーちゃんとかうたろう。おかげで予定よりも早く耳つくりも終わりました。無表情でミシンをかけるようなポーズ、通称ミシンポーズなんてものもできました。9月。いよいよペンキスタートです。色塗りが始まるとみんなの顔も再び活力を取り戻し、2年生の絵・3年生の絵がだんだん完成してゆきました。絵の色決めについて真摯に相談のつてくれたこーせい、与えられた仕事を丁寧こなすはると。この二人もしかり活動に協力してくれました。ロープ通し、布設置はたくさんの他部門の同輩、後輩が来てくれて、無事に収穫祭当日を迎えることができた。体育館申請や布設置の業者についてスムーズにいかなかった部分があり、裝飾部門のメンバーや会計の良太、総務部、委員長のみんなにはご迷惑と心配をおかけしましたが、なんとか乗り切ることができました。布が設置される瞬間は経験したことのない達成感でいっぱいになりました。

ここで、この1年間を一緒に頑張つた裝飾部門のメンバーを紹介致します！

十時なのに十五時

家畜苑苑長

3年 竹 内

豊

今年の家畜苑は三年生二人、二年生四人の計六人で活動しました。

三年生が主に絵の担当、二年生が門の担当、一年生がベンチ、コーン、牛の模型の色塗り担当で作業を進めていきました。活動目標は楽しい雰囲気での活動です。実際に活動はとても楽しくできたので大成功だったと自分では思っています。

自分が昔から遅刻癖があり、遅刻するのはしょうがない。ただその分他の日に早く来て作業を進めて遅刻の埋め合わせをしていくスタイルでやっていたころとみんなに伝えると、十時集合の日に十五時に来るという大遅刻事件があったのもいい思い出です。今年のはやと君が青空にひまわり、秋は三年生の良太君が紅葉と鳥居、冬は一年生のあさはちゃんとあかりちゃんが雪景色を描きました。今までは各自でコンセプトを決め描いていたので、新しい試みを実現できてよかったです。

門は歴代の中で一番大きなサイズの門を作りました。大きすぎて作業場から運び出すのも命がけでした。しかし歴代最強の門を作ってくれた二年生は自分の自慢の後輩です。最高です大好きです。

一年生が担当してくれたベンチ、コーン、牛の模型の色塗りもかなりクオリティが高く驚きました。センスあふれた物を作ってくれて本当にありがとうございます。みんな大好きです。

家畜苑は他の部門、研究室、富士農場、一年生などたくさんさんの

まずは3年生。

☆みーちゃん(池内美里) ☆

1年から裝飾部門のお手伝いをして、裝飾のプロ。去年に引き続き、1番はやく神輿小屋にきて着替えも済ませて待つてくれました。どんな作業でもそつなくこなす。作業のクオリティも完璧。頼りがいがある、みーちゃんがいなかったら垂れ幕は完成しなかったかもしれないと言っても過言ではないはず！

そして2年生。

☆こうたろう(木瀬康太郎) ☆

去年の夏合宿で酔つてオカマ口調になっていたのが印象深すぎて、どんな活動になるか心配でした。でも実は静かで自分の世界を持ち主。頭が切れてアイデアマンなこうたろうは、作業の覚えも早くて来年は委員長としてしっかり裝飾部門を引っ張ってほしいです！

☆はると(宇都宮遥斗) ☆

畜友會イチのイケメンボイス。仕事をしながら畜友會にも入るといふストイックな性格のはるとは、作業においてもしっかり者。一度注意したことはしっかりと治して、丁寧な作業が印象的です。来年も頑張ってくれることを期待しています！

☆こーせい(西本耕生) ☆

不器用だけど頑張り屋なこーせい。苦手なミシンも難しい色塗りも一生懸命頑張つてくれました。遅くまでバイトして朝早くから活動の日々はかなり大変だったはず。頑張つてくれてありがとう！

こんなに素敵な仲間と一緒に活動できてよかったです。そして手伝いに来てくれた1年生のなつきちゃん、はなちゃん、なつきちゃんもありがどう！いままです裝飾部門は1年生のお手伝いがありなかつた中で来てくれたのはとても嬉しかったです。そして4年生の華子さん、聡美さん、道前さん、いろんな相談を聞いてもらったり、サポートしてもらったり、ありがとうございました。

最後になりましたが、ご支援をいただいた先生方、各研究室の方々、相談を聞いていただいたOB・OGの方々、畜友會の統委員長、副統委員長、なんだかんだ仲良しな3年生、畜産学科最後の畜友會を締めくくる2年生、お手伝いに来てくれた1年生、本当にありがとうございます。つらいことも悔しいこともたくさんありましたが、すべて経験として私の糧になっています。そして楽しかった畜友會での活動はずっと忘れません。一緒に活動できたすべての人に感謝でいっぱいです。

方々の協力なしでは成功しない部門です。活動中も収穫祭当日も皆さんの協力があったり立ちます。本当色々な方々に感謝してもしきれないです。そして自分がシーズン中一番感謝しているのが相手の三年生畠山良太君です。彼は会計や研究室の仕事をしながらも、集合時間にしっかりと活動場所について作業を黙々と進めている凄いな男です。しかもイケメンで優しく、二年生がだらけているときには注意し場を縮めてくれました。彼がいなかったら絶対に今年の家畜苑は成功しなかったです。ありがとう。

自分は本当に畜産学科統一本部に入つてよかったなと思えたシーズンでした。収穫祭、体育祭が終わった瞬間、もうこの仲間たちとバカ騒ぎしながら活動することは一生出来ないのかと思うと寂しくて寂しくてたまりませんでした。人生で一番楽しい時間でした。

来年が本番の後輩たちには去年より楽しかったです！と胸を張つて自分たちに自慢できる様なシーズンにしてほしいです。順位がつく部門では自分たちの代の結果をすべて超えてほしいです。自分たちの自慢の後輩なら簡単にやってくれるはず！

最後に、繰り返しになりますが本当に皆さんの協力のおかげで今年の活動は大成功でした。

家畜苑のみんな、何も無い自分についてきてくれてありがとう！！

畜産学科統一本部の三年生、二年生、一年生、最高の時間をありがとう！！

編集後記

今年度も無事、第五十五号目になる『ふじみの』を発刊することができました。こうして皆様の手に届き、ご覧いただけることを大変嬉しく思います。

第十九回収穫祭は、天候には恵まれなかったものの、多くの方に来場していただきました。毎年恒例の家畜苑や野菜無料配布も大盛況に終わりました。皆様も準備から本番や片付けまで、忙しくも楽しく充実した時間となったのではないのでしょうか。

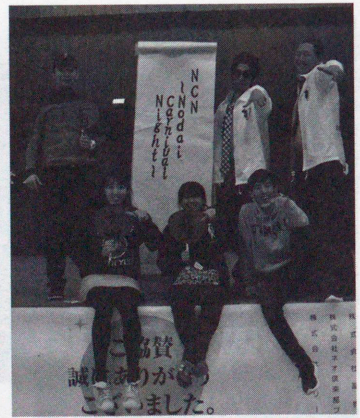
第一二七回体育祭では、学科の枠を超え、農学部として他の学科を応援し合う姿がとても印象的だったのではないのでしょうか。今年は競技と櫓、総合で二位を獲得することができました。今後の皆様の益々のご活躍を祈っております。

最後になりましたが、本誌を発刊するにあたり、お忙しい中ご寄稿くださった先生方、学生の皆さん、ならびに会員の方々に深く御礼申し上げます。

編集委員長 3年 池内 美里



統一部門



特別企画部門

平成31年3月20日 発行
 “ふじみの”第55号
 発行所 神奈川県厚木市船子1737
 東京農業大学農学部畜産学科畜友会
 電話 046(270)6220(総務課)
 印刷所 東京都荒川区西尾久7-12-16
 創文印刷工業株式会社
 電話 03(3893)0111
 ふじみの執行委員 池内 美里
 大畑 夏帆



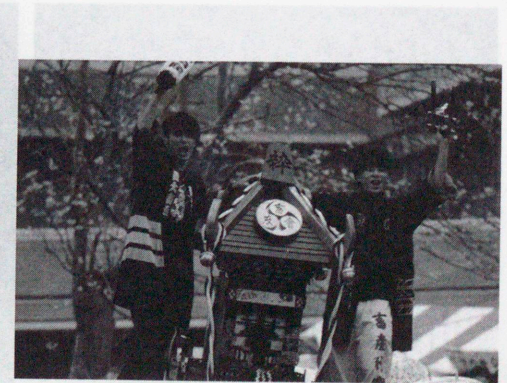
体育祭部門



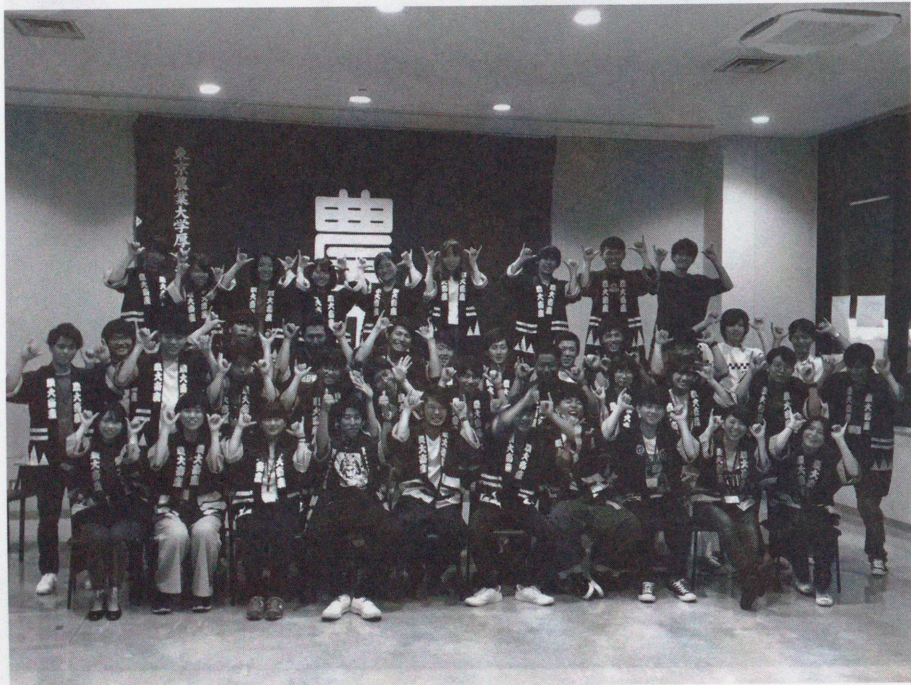
櫓部門



宣伝隊



神輿部門



装飾部門



家畜苑部門

